

小学校における「考え，議論する」 道徳科授業の在り方に関する研究

—親切，思いやりを体系的に育む問題解決的な学習，道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた指導方法の工夫—

【研究の概要】

他者と共によりよく生きる基盤となる道徳性を養うため，親切，思いやりの道徳的価値の指導内容を低・中・高学年ごとに「気付く」「分かる」「生かす」の3つの観点で具体化し，体系的な指導を工夫するとともに，問題解決的な学習，道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた学習指導過程例を作成した。

それに沿って，2年生・4年生・6年生で授業実践を行い，アンケート及び児童の発言や振り返りの記述から，手立てや学習指導過程の有効性の検証をした結果，児童の親切，思いやりの理解に深まりが見られたことから，小学校における「考え，議論する」道徳科授業の1つの在り方を提示することができた。

キーワード：「気付く」・「分かる」・「生かす」・学習指導過程例

平成 29 年 3 月
岩手県立総合教育センター
長期 研修 生
所属校 花巻市立宮野目小学校
佐 藤 朋 広

目次

I	研究主題	1
II	主題設定の理由	1
III	研究の目的	1
IV	研究の目標	2
V	研究の見通し	2
VI	研究構想	2
1	「考え、議論する」道徳科授業に関する基本的な考え方	2
(1)	道徳教育の目標の捉え	2
(2)	道徳科の目標の捉え	2
(3)	「考え、議論する」道徳科授業に関する基本的な考え方	3
2	「考え、議論する」道徳科授業における効果的な指導方法の工夫	4
(1)	効果的な指導方法の工夫	4
(2)	親切、思いやりの道徳的価値の体系的な指導方法の工夫	5
3	「考え、議論する」道徳科授業を具現化するための手立て	5
(1)	問題解決的な学習指導過程	6
(2)	道徳的行為に関する体験的な学習指導過程	7
(3)	問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の学習指導過程と発問例、活用例	8
(4)	親切、思いやりの道徳的価値の体系的な指導方法と手立て	10
4	研究構想図	11
5	研究の検証計画	12
VII	授業実践と授業の考察	13
1	実践日程等	13
2	実践授業の実際と考察	14
(1)	授業実践1について	14
(2)	授業実践2について	22
(3)	授業実践3について	30
VIII	研究のまとめ	38
1	児童のアンケート結果と考察	38
2	児童の振り返りの記述結果と考察	39
3	全体考察	41
4	研究の成果	41
5	今後の課題	41
	<おわりに>	42
IX	引用文献，参考文献，引用Webページ，参考Webページ	42

I 研究主題

小学校における「考え、議論する」道徳科授業の在り方に関する研究
—親切、思いやりを体系的に育む問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた指導方法の工夫—

II 主題設定の理由

平成27年3月、学習指導要領が一部改訂され、「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）として位置付けられた。それに伴い、道徳教育の目標は、「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」と改められた。また、道徳科の目標も、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と改められた。

これは、これまで読み物教材の登場人物の心情理解のみに偏り、「あなたならどのように考え、行動・実践するか」を子供たちに真正面から問うことを避けてきた嫌いがあることを背景としている（教育課程企画特別部会（2015）、『論点整理』）。そのため、本改訂は、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する」道徳へと質的に変換し、道徳教育の充実・強化を図ることを目的として示された。

その目的達成のため、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習などを取り入れた指導方法の工夫の必要性が示された。児童が相手の立場を理解し、他者を思いやる心を育成しながら自分の考えをさらに深めていくためには、自分の考えだけでなく、友達との議論を通して、人の考え方が多様であることに気付いていく必要があり、様々な立場や側面から物事を捉え、考えを深めたり広げたりする多面的・多角的な思考を行うことが非常に重要であると言える。さらに、道徳教育推進上の配慮事項において、新たに「他者を思いやる心の育成」が指導内容の重点に加えられた。これは、今日の重要な教育課題の一つであるいじめの未然防止に対応するとともに、いじめを生まない雰囲気や環境を醸成するためのものである。道徳教育を通じて、互いの違いを認め合い理解しながら、自分と同じように他者を尊重する態度を育てることが求められている。

小学校では発達段階による学び方の差が大きく、一律の指導方法では道徳的価値を深めていくことは難しい。そこで、各学年に相応した道徳的価値の理解を深めるために、低・中・高学年の指導内容と発達段階に応じて、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習などの指導方法を工夫する必要がある。

そこで本研究では、他者と共によりよく生きることの基盤となる道徳性を養うために、「親切、思いやり」の体系的な指導と、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の指導方法を取り入れた授業実践を通して、「考え、議論する」道徳授業の在り方を明らかにしていく。

III 研究の目的

児童の親切、思いやりの道徳的価値の理解を各学年の発達段階に応じて体系的に深めるために、低・中・高学年の内容と発達段階と特性に応じた問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた授業実践を通して、小学校における「考え、議論する」道徳科授業の在り方を研究、考察、検証し、提案する。

IV 研究の目標

児童の親切, 思いやりの道徳的価値の理解を各学年の発達段階に応じて体系的に深めるために, 低・中・高学年の内容と発達段階と特性に応じた問題解決的な学習, 道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた学習の展開を示す。そして, 授業実践を通して活用した事前・事後アンケート, ワークシート, 学習指導案等を検討, 整理し, 資料としてまとめ, 小学校における「考え, 議論する」道徳科授業の在り方を研究, 考察, 検証し, 提案する。

V 研究の見通し

親切, 思いやりの低・中・高学年の内容と発達段階を体系的に踏まえた指導計画を作成し, それを基に, 指導のねらいに即して問題解決的な学習, 道徳的行為に関する体験的な学習の取り入れ方を工夫した学習指導案を作成する。そして, 事前アンケート, 授業実践, 事後アンケートを通して, 児童がどのように変容したかを調査することで, 手立ての有効性を検証し, これらを資料としてまとめることで, 小学校における「考え, 議論する」道徳科授業の在り方を研究, 考察, 検証し, 提案する。

IV 研究構想

1 「考え, 議論する」道徳科授業に関する基本的な考え方

(1) 道徳教育の目標の捉え

道徳教育の目標は, 自己の生き方を考え, 主体的な判断の下に行動し, 自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。人格の基盤を形成する小学校の段階においては, 児童自らが自己を見つめ, 「自己の生き方」を考えることができるようにすることが大切である。特に, 児童が自己を肯定的に受け止め, 自分の生活を見直し, 将来に向けて夢や希望をもち, よりよい生活や社会をつくり出そうとする態度の育成が求められる。

人は誰もがよりよい自分を求めて自己の確立を目指すとともに, 一人一人が他者と共に心を通じ合わせて生きようとしている。したがって, 他者との関係を主体的かつ適切にもつことができるようにすることが求められる。児童一人一人が自らの人生や未来を拓いていく力を育む源が道徳教育ともいえる。

小学校の時期においては, 6年間の発達の段階を考慮するとともに, 幼児期の発達の段階を踏まえ, 中学校の発達の段階への成長の見通しをもって進める必要がある。

(2) 道徳科の目標の捉え

ア 道徳科の目標の構造

道徳科が目指すものは, 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同様によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。道徳性とは, 人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり, その中核となっているのが, 道徳科の目標に示されている道徳的な判断力, 心情, 実践意欲と態度といった内面的資質である。小学校では, 「多面的・多角的に考え, 自己の生き方についての考えを深める学習」, 中学校では「物事を広い視野から多面的・多角的に考え, 人間としての生き方についての考えを深める学習」といったように, 小学校, 中学校のそれぞれの発達の段階に即した重点が示されている。

イ 「多面的・多角的に考える」とは

「多面的・多角的に考える」とは, 道徳的価値の理解を基に行うものである。道徳的価値とは, 「他者と共によりよく生きていくために必要とされているもの」であり, 「人間の在り方や

生き方の礎となるもの」である。多面的に考えるとは、道徳的価値が持つ本質的な側面(多面性)を一面から捉えるのではなく、様々な面から捉えることである。例えば、思いやりを多面的に考えるのであれば、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量る視点を踏まえ、「相手を励まそうとする心」「相手を援助しようとする心」「相手を見守ろうとする心」のように道徳的価値の多面性を捉え、考えることである。また、多角的に考えるとは、多面性に着目した道徳的価値について、「自分なら」「相手なら」「今なら」「過去なら」「未来なら」といったように、視点を変えて捉え、考えることである。また、「思いやりと規則の尊重」といったように他の道徳的価値との関わりから捉えることでもある。小学校における道徳科の学習では、児童一人一人が道徳的価値に関わる事象を通して体系的に道徳的価値の多面性をこれまでとは異なる側面から捉えさせたり、考える視点を増やしたりしていくことで、道徳的価値のよさや意義、困難さ、多様さなどへの理解を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われることが求められている。

ウ 「自己の生き方について考えを深める」とは

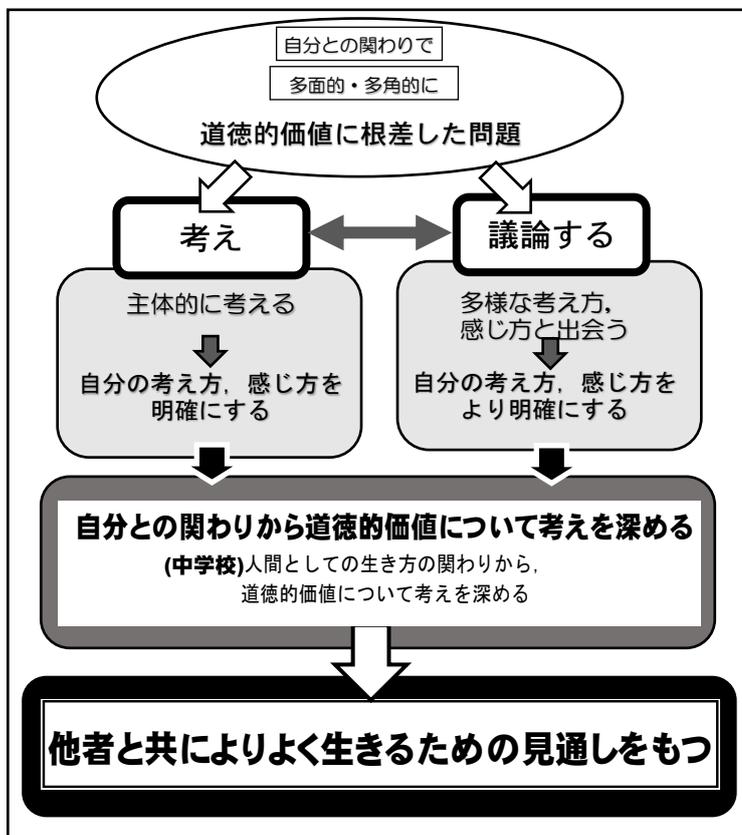
自己の生き方についての考えを深めるとは、児童が道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止めること、他者の多様な考え方や感じ方に触れることで身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめること、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることと捉える。これらのことが、児童の実態に応じて計画的になされるように指導を工夫していく必要がある。

(3) 「考え、議論する」道徳科授業に関する基本的な考え方

今回の改訂は、道徳教育を通じて、個人が直面する様々な状況の中で、そこにある事象を深く見つめ、自分はどうすべきか、自分に何ができるかを判断し、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにしていくなどの改善が必要とされ、「考え、議論する」道徳へと質的に転換し道徳教育の充実・強化を図ることを目的としている。

そこで必要なことは、まず、一人一人の児童が、道徳的価値に根差した問題について、自分がどのように感じたり考えたりするのかを「考える」ことである。これにより、背景にある道徳的価値と自己との関わりを主体的に捉えることにつながり、自分の感じ方や考え方が明確になる。

さらに、異なる意見をもつ他者と「議論する」ことによって、多様な感じ方や考え方に会うことができる。他者と協働して考えることによって、多様な価値観の存在を認識するだけでなく、自分の感じ方や考え方がより明確になる。



【図1】「考え、議論する」道徳科授業構想図

そして、その問題に対して、自分のこととして捉えることで道徳的価値への理解を深めたり、そのよさや難しさなどについて確かめたりすることで、自己の生き方について思いをはせ、よりよく生きるための見通しをもつことができる。このように、道徳的価値と向き合い、自らの生き方を育んでいくことが、「考え、議論する」道徳と考える。

以上より本研究では、「考え、議論する」道徳科授業を次のように捉え、授業構想を前項【図1】に示す。

「考え、議論する」道徳とは、一人一人の児童が、道徳的価値に根差した問題について、自分がどのように感じたり考えたりするのかを「考え」、異なる意見をもつ他者と「議論する」ことで、多様な感じ方や考え方に会い、自分との関わりから道徳的価値について考えを深めることによって、よりよく生きるための見通しをもつこと。

2 「考え、議論する」道徳科授業における効果的な指導方法の工夫

(1) 効果的な指導方法の工夫

「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成27年7月」では、「児童一人一人が道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることで道徳性を養うという特質を十分考慮し、それに応じた学習指導過程や指導方法を工夫することが大切である。」として、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を例示している。このことから、本研究では、効果的な指導方法の工夫を児童の実態とねらいに応じて、『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日』で示された指導方法の特長【表1】を生かしながら、道徳的諸価値について多面的・多角的に学ぶために学習指導過程を工夫することと捉える。そこで、道徳的価値に根差した問題【表2】が含まれる教材を用いながら「自己を見つめる」「多面的・多角的に考え、議論する」「自己の生き方を考える」の3つの学習活動を位置付けた学習指導過程を基に、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習といった指導方法を工夫することで、「考え、議論する」道徳科授業の実現を図っていく。

【表1】 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の指導方法の特長

問題解決的な学習の特長	道徳的行為に関する体験的な学習の特長
<ul style="list-style-type: none"> ・児童が生きる上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。 ・問題場面について児童自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問などによって、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技などの体験的な学習を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することを通して、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。 ・問題場面を実際に体験してみること、また、それに対して自分ならどのような行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

【表2】 道徳的価値に根差した問題

ア 道徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題
イ 道徳的諸価値について理解が不十分又は誤解していることから生じる問題
ウ 道徳的諸価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤から生じる問題
エ 複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題

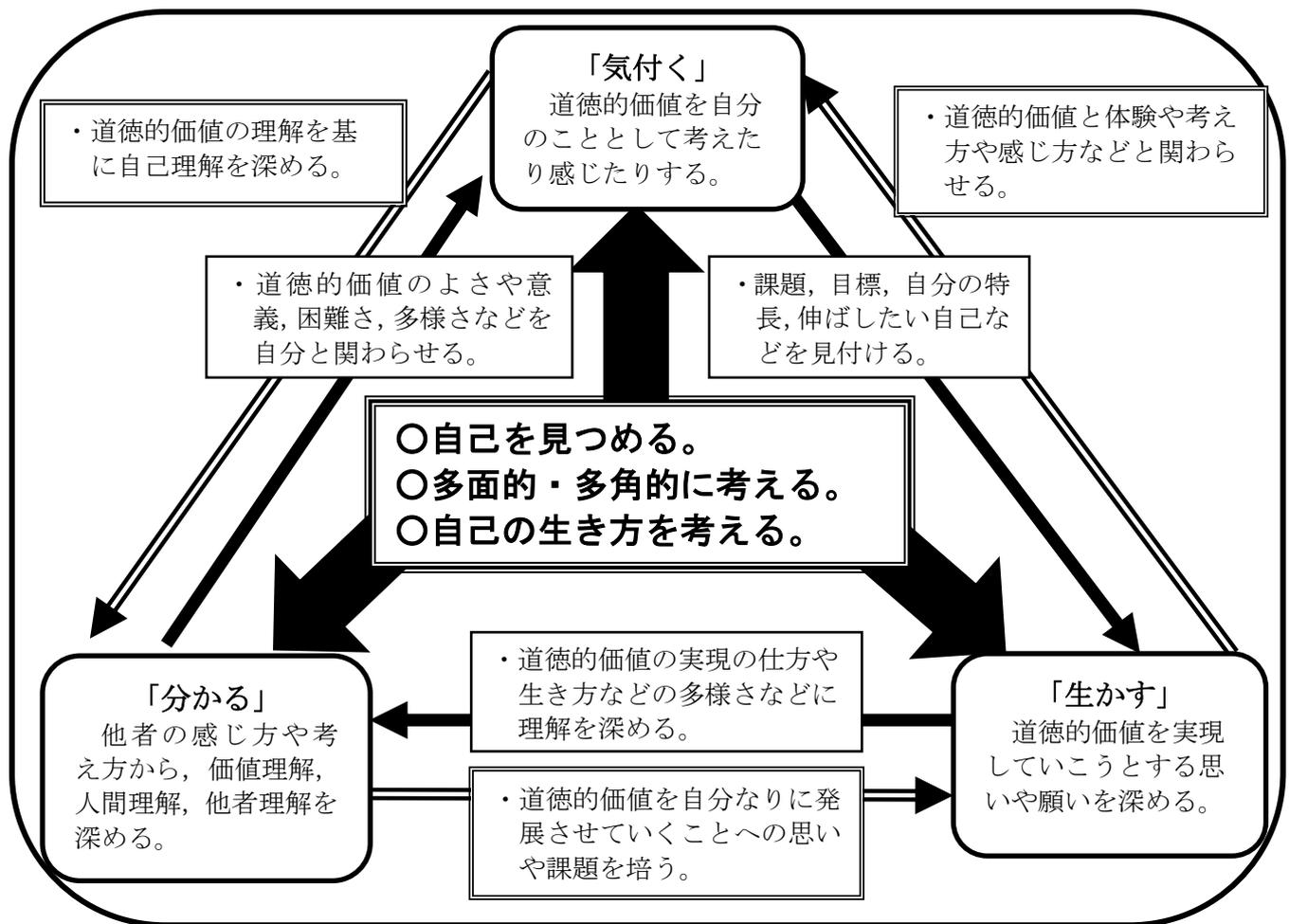
(2) 親切，思いやりの道徳的価値の体系的な指導方法の工夫

体系的に児童の思いやりの心を育むためには，児童の発達段階に合わせて指導していくことが大切である。井口(2007)は、『思いやり』の気持ちの基盤となるのが『共感』であり，共感とは，相手が置かれている状況の中で相手がどのように感じているかということをも自分自身の感情として共有することである。誰かに共感するためには，まず，相手は自分と違った感情をもっている，感情には様々なものがあるという理解が求められる。」としている。このことから，思いやりの心を育むためには，相手は違った感情をもっている，感情には様々なものがあるという理解から，発達段階に応じて共感する相手を広げたり，相手の気持ちをより理解したりしていくことが必要と考える。そして，親切とは，相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り，相手に対してよかれと思う行為をすることであり，その伝え方や対象者を増やしたり広げたりすることが大切と考える。そこで，低学年では，自分中心の考え方になりがちなことから，相手は自分と違う考えや感情があることが分かり，自分の視点から相手に目を向けさせることで，相手のための具体的な親切を考えさせる。中学年では，相手の気持ちをより深く理解するようになることから，相手の状況や気持ちを想像し，自分自身の感情と共有しながら相手へ思いを向け，相手の状況や気持ちに合った親切を考えさせる。高学年では，客観的に考えられるようになることから，自分自身と感情を共有する相手を広げたり，相手の立場への理解を深めたりすることで，誰に対しても相手の立場に立った親切を考えさせる。こうすることで，児童の親切，思いやりの道徳的価値が体系的に育まれていくと考えられる。ただし，児童の発達段階は一律ではなく，実態に応じて指導していくことが大切である。

3 「考え，議論する」道徳科授業を具現化するための手立て

上記の内容を具現化していくために，効果的な指導方法の工夫として，学習指導過程において「自己を見つめる」「多面的・多角的に考え，議論する」「自己の生き方を考える」の3つの学習活動を位置付け，問題解決的な学習，道徳的行為に関する体験的な学習を効果的に学習指導過程に取り入れていくことが重要と考える。また，道徳的価値の体系的な指導方法の工夫として，「気付く」「分かる」「生かす」という3つの観点で児童の一人一人が自分と道徳的価値との関わりを捉えることができるようにする。ここでいう「気付く」とは，道徳的価値を自分のこととして考えたり感じたりすることである。「分かる」とは，他者の感じ方や考え方から価値理解，人間理解，他者理解を深めることである。「生かす」とは，道徳的価値を実現していこうとする思いや願いを深めることである。こうした，学習指導過程における3つの学習活動と「気付く」「分かる」「生かす」の関わりを次項【図2】に示す。

本研究では，児童が自分との関わりで道徳的価値への理解を深めていくことができるように，「自己を見つめる」「多面的・多角的に考え，議論する」「自己の生き方を考える」学習活動を取り入れた，問題解決的な学習，道徳的行為に関する体験的な学習の学習指導過程を作成するとともに，親切，思いやりの道徳的価値を「気付く」「分かる」「生かす」の観点に沿って育ていけるように手立てを工夫していく。



【図2】3つの学習活動と「気づく」「分かる」「生かす」の関わり

(1) 問題解決的な学習指導過程

問題解決的な学習とは、道徳的価値に根差した問題を自分のこととして捉え、議論し、探究するプロセスの中で道徳的価値の理解を深めていく指導方法である。

まず、①道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について問題意識をもち自己を見つめる場面において、主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る。

次に、②道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について多面的・多角的に考える場面において、「自分だったら」「親切とは何か」などの道徳的価値を考え、議論することを通して、ねらいとする道徳的価値を追求し、多様な考え方や感じ方に会うことで、自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたりする。

そして、③自己の生き方を考える場面では、学習を通して考えたことや新たに分かったことを自己を見つめながら確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする。この学習指導過程を通じて、道徳的価値を自分との関わりで深めることが、内面的資質の高まりとよりよく生きる見通しをもたせることにつながると考える。このことを基に、問題解決的な学習の学習指導過程を【表3】に示す。授業実践では、児童の実態やねらいに合わせて学習指導過程を選択していく。また、発問の工夫も学習指導過程の中に位置付ける。

(2) 道徳的行為に関する体験的な学習指導過程

道徳的行為に関する体験的な学習とは、道徳的価値を理解したり、自分との関わりで多面的・多角的に考えたりするために、役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深める指導方法である。問題解決的な学習指導過程との違いは、②道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について多面的・多角的に考える場面において、役割演技等の疑似体験活動を取り入れ、学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めることである。役割演技などで児童一人一人が感じたり考えたりしたことを議論することを通して、多様な考え方や感じ方に出会い、自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたりする。そして、この学習指導過程を通じて、実感を伴って道徳的価値を自分との関わりで深めることが、内面的資質の高まりとよりよく生きる見通しをもたせることにつながると考える。このことを基に、道徳的行為に関する体験的な学習の学習指導過程を【表4】に示す。授業実践では、ねらいや題材に合わせて学習指導過程を選択していく。また、発問の工夫も学習指導過程の中に位置付ける。

(3) 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の学習指導過程と発問例、活用例

【表3】【表4】に示された問題解決的な学習と道徳的行為に関する体験的な学習の学習指導過程に、発問例、活用例を合わせて示す。学習指導過程に示されている白丸の数字は、問題解決的な学習に関係する学習活動を表し、①、②、③、⑬、⑭は、道徳的行為に関する体験的な学習と共通する学習活動である。黒丸の数字は、道徳的行為に関する体験的な学習に関係する学習活動である。授業実践では、児童の実態やねらいに合わせて、例えば、導入②、展開④⑤⑧⑪、終末⑭といったように学習指導過程を選択していく。また、道徳的行為に関する体験的な活動（☆）は、指導のねらいと児童の実態に応じて必要な学習場面に取り入れる。

【表3】問題解決的な学習の学習指導過程と発問例

導入	1 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について問題意識をもち自己を見つめる場面 主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る。		
	①教材や日常生活などから道徳的価値に根差した問題を意識する。	②道徳的価値の本当の意味や意義を考える。	③個人的な経験や具体的な事例から、道徳的価値を考える。
	例:どこに問題がありますか。	例:親切とは、何ですか。	例:親切にしてもらってよかったことはありますか。
展開	2 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について多面的・多角的に考える場面 道徳的価値に対する児童一人一人の考え方や感じ方を生かしたり、物事を多面的・多角的に考えたり、児童が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたりする。 ・教材などを基に、道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について考える。		
	④道徳的価値に根差した問題の状況を分析する。	⑤登場人物などの考え方や行為から、道徳的価値を考える。	⑥登場人物などの考え方や行為に対して、考えをもつ。
	例:登場人物は、どうして迷っていますか。	例:登場人物は、どのようなことを思いながら、親切にしたのでしょうか。	例:登場人物の考えている親切に対して、どのように思いますか。
	・教材などを基に、道徳的価値に根差した問題の解決方法を考えたり、道徳的価値について考えたりする。		
	⑦登場人物のために解決策を考え、検討する。	⑧道徳的価値について考える。	⑨自分だったらどうするかを考える。
	例:登場人物は、どうすればいいのですか。	例:見守ることも親切だと思いますか。	例:自分だったら、どうしますか。
	・教材や議論したことなどを基に、道徳的価値についての理解を深めたり、考えた解決策を身近な問題に適用したりする。		
⑩解決策から、道徳的価値を考える。	⑪道徳的価値について、さらに深める。	⑫導入で扱った事例や新たな事例などを提示し、問題を解決するシミュレーションを行う。	
例:登場人物は、どうして〇〇を選んだと思いますか。	例:本当の親切とは何だと思いますか。		
終末	3 自己の生き方を考える場面 学習を通して考えたことや新たに分かったことを自己を見つめながら確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする。		
	⑬学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。	⑭学習を振り返り、これからの自己の目標や課題を考える。	
	例:学習を通して考えたことや新たに分かったことは何ですか。	例:学習したことで、これから生かしていきたいことはありますか。	

【表4】道徳的行為に関する体験的な学習の学習指導過程と発問例，活用例

導 入	1 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について問題意識をもち自己を見つめる場面 主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る。		
	①教材や日常生活などから道徳的価値に根差した問題を意識する。	②道徳的価値の本当の意味や意義を考える。	③個人的な経験や具体的な事例から、道徳的価値を考える。
	例:どこに問題がありますか。	例:親切とは、何ですか。	例:親切にしてもらってよかったことはありますか。
展 開	2 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について多面的・多角的に考える場面 役割演技などで児童一人一人が考えたり感じたりした内容から、物事を多面的・多角的に考えたりすることで、自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたりする。		
	・道徳的行為に関する体験的な活動などを通して、道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について考える。		
	④道徳的価値に根差した問題場面を把握し考察する。	⑤登場人物の行動の意味や心情を考える。	⑥問題場面を実際に体験する。
	☆動作化などで、問題場面の再現など。 例:登場人物は、どうして～したと思いますか。	☆役割演技などで、行動や心情の再現など。 例:登場人物は、どんな気持ちだったと思いますか。	☆役割演技などで、問題場面を実際に体験するなど。 例:問題場面を体験して、どんなことを思いましたか。
	・道徳的行為に関する体験的な活動などを通して、道徳的価値を理解する。		
	⑦登場人物の行動や心情などを考える。	⑧登場人物の考えや葛藤などを理解する。	⑨解決策を考え、検討する。
	☆役割演技などで、登場人物の心情の再現などを行う。 例:登場人物は、どんな気持ちになったと思いますか。	☆役割演技などで、登場人物の葛藤の再現など。 例:登場人物は、何を迷っているのですか。	☆役割演技などで、問題解決の解決策を実際に行うなど。 例:問題を解決するには、どうすればいいですか。
・道徳的行為に関する体験的な活動などを通して分かったことから、道徳的価値についての理解を深める。			
⑩体験して考えたり、感じたりしたことから、道徳的価値について考える。	⑪道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。	⑫解決策に共通する道徳的価値を考える。	
☆動作化などで、道徳的行為をするなど。 例:親切にするためには、何が大切だと思いますか。	☆役割演技などで、道徳的行為をするなど。 例:本当の親切とは何だと思いますか。	☆役割演技などで、共通する道徳的価値に気付くなど。 例:共通することは何ですか。	
終 末	3 自己の生き方を考える場面 学習を通して考えたことや新たに分かったことを自己を見つめながら確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする。		
	⑬学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。	⑭学習を振り返り、これからの自己の目標や課題を考える。	
	例:学習を通して考えたことや新たに分かったことは何ですか。	例:学習したことで、これから生かしていきたいことはありますか。	

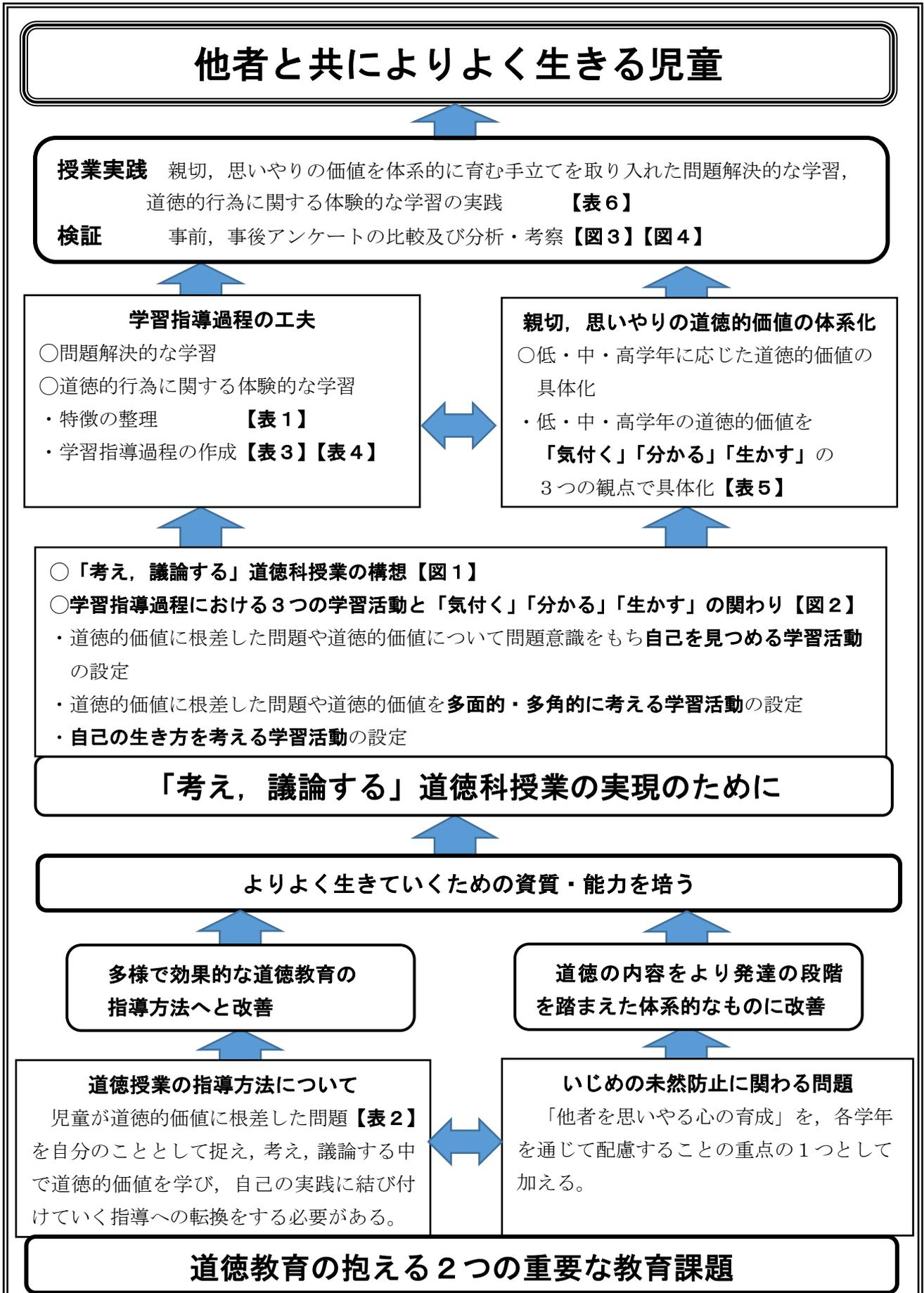
(4) 親切, 思いやりの道徳的価値の体系的な指導方法と手立て

「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成27年7月」では, 発達段階を基に道徳的価値についての指導内容を発展させて示している。そこで本研究では, まず, 低・中・高学年の指導内容を「気付く」「分かる」「生かす」の3つの観点から, 体系的な指導方法と手立てによって, めざす親切, 思いやりの道徳的価値に具体化する。親切, 思いやりにおける「気付く」とは, 低学年では自分からの観点で, 中学年では, 相手の立場に立って, 高学年は自分自身に置き換えながら相手の立場や気持ち, 相手にとってよりよい行為を判断していくことと捉え, 同様に「分かる」とは, 低学年では親切, 思いやりの大切さやよさ, 中学年では相手のことを考えた親切, 思いやりのよさ, 高学年では相手の立場に立った親切, 思いやりのよさが分かると捉える。また, 「生かす」とは, 低学年では身近な人に, 中学年では様々な人に, 高学年では接する全ての人に, 「気付く」「分かる」から学んだことを基に, 相手の立場に立った行為をとろうとしたり, 心の準備をしたりすることと捉える。このように親切, 思いやりの道徳的価値を育む手立てを体系化したものが, 【表5】に示したものである。また, 授業においては, 児童の発達段階とねらいに合わせてより具体化し, 前述の学習指導過程【表3】【表4】に基づき, 授業を展開していく。この時, 低学年の「人との関わりから相手の考えや気持ちに気付く」という発達段階を考慮し, 道徳的行為に関する体験的な学習を多く取り入れたり, 高学年の「自他を客観的に捉える」という発達段階から問題解決的な学習を多く取り入れたりすることが効果的ではないかと考え, 合わせてその指導方法の工夫として【表5】に表わした。

【表5】 親切, 思いやりの道徳的価値の体系的な指導方法と手立て

	発達段階	内容項目の概要	親切, 思いやりの道徳的価値を育む手立て			指導方法の工夫	
			3つの観点による指導のねらい				
			気付く	分かる	生かす		
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"> 自他を客観的に捉える。 相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰に対しても思いやりの心を持ち, 相手の立場に立って親切にすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身に置き換えながら, 相手の気持ちや立場に気付く。 相手のためになる親切な行為に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係などを乗り越えて相手の立場に立って考え, 誰にでも親切にすることのよさや大切さが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 接する全ての人に親切にしようとする。 	問題解決的な学習	
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちをより深く理解する。 他の人も, 自分たちの考え方や感じ方と同じだと, 思い込みがちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手のことを思いやり, 進んで親切にすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちや立場に気付く。 取るべき親切な行為に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちや立場を考えたり, 進んで親切な行為をしたりすることのよさや大切さが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な人に進んで親切にしようとする。 		道徳的行為に関する体験的な学習
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> 自分中心の考え方になりがちになる。 人との関わりから, 相手の考えや気持ちに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手のことに気付く。 取るべき親切な行為に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 温かい心で接することのよさが分かる。 具体的な親切な行為が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人に親切にしようとする。 		

4 研究構想図



5 研究の検証計画

授業実践前の7月に「道徳の学習に関するアンケート」を行う。その上で、10月、11月の授業実践後に同じアンケートを行い、比較し変容を見る。また、授業実践で児童が記述したワークシートから、道徳的価値を自分のこととして考えたり感じたりすることができているか、他者の感じ方や考え方から、価値理解、人間理解、他者理解を深めることができているか、道徳的価値を実現していこうとする思いや願いを深めることができているかという3つの観点で検証する。

検証項目	検証内容	検証方法
<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習の効果 ・道徳的行為に関する体験的な学習の効果 ・問題解決的な学習と体験学習を関わらせた学習の効果 ・親切, 思いやりの道徳的価値を多面的・多角的に考えることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した学習指導過程において、道徳的価値を自分のこととして考えたり感じたりすることができているか、他者の感じ方や考え方から、価値理解、人間理解、他者理解を深めることができているか、道徳的価値を実現していこうとする思いや願いを深めることができているか。 ・低・中・高学年ごとに設定した「気付く」「分かる」「生かす」の3つの観点がねらいに迫る手立てとなっていたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に授業実践前と後に選択式のアンケートを実施し、その変容を分析する。 ・実践授業で児童がワークシートに記述した内容や発言を分析する。

Ⅶ 授業実践と授業の考察

1 実践日程等

- (1) 実践校 花巻市立宮野目小学校
- (2) 対象学年 第2学年29名, 第4学年32名, 第6学年36名
- (3) 実践期間 平成28年10月13日(木)～11月11日(金)
- (4) 実践内容

実践内容は、一覧として【表6】に示した通りである。

【表6】実践内容の一覧

授業実践1 第2学年	平成28年10月18日(火)
	主題名 相手の本当の気持ちは [親切, 思いやり] 教材名 公園のおにごっこ (出典 学研「みんなのどうとく2年」) <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 22%;">みんなと同じように走れないゆうたのことを考えて、おにごっこをするしんじたち</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 22%;">ゆうたがおにごっこから外れたことから、ゆうたのことを考え始めるしんじたち</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 22%;">ゆうたを誘い、ゆうたにもみんなと同じように追いかけて、タッチしたしんじ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 22%;">ゆうたが元気になってみんなを追いかけ始めたことから、夢中でおにごっこを続ける</div> </div>
授業実践2 第4学年	平成28年10月13日(木)
	主題名 思いやる心を伝えよう [親切, 思いやり] 教材名 心の信号機 (出典 学研「みんなのどうとく4年」) <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 22%;">目の不自由な人が交差点を渡らないことが気になるぼく</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 22%;">渡るのを手伝おうと決心するが、いざ歩き出すと、足がゆっくりになるぼく</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 22%;">誰かに背中をたたかれたように、思い切って声をかけるぼく</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 22%;">目の不自由な人と一緒に横断歩道を渡り終えて、ほっとしたぼく</div> </div>
授業実践3 第6学年	平成28年11月11日(金)
	主題名 人への思いやり [親切, 思いやり] 教材名 車いすでの経験から (出典 東京書籍 小学校道徳6年「明日をめざして」) <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 22%;">車いすで電車を利用することに不安になるぼくと母</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 22%;">駅員さんからのたくさん思いやりのある行為のおかげで、電車を利用することができたぼくと母</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 22%;">車いすでの経験を振り返るぼく</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 22%;">知らないおばあさんにも自然と声をかけて、手伝うことができるようになったぼく</div> </div>

2 実践授業の実際と考察

(1) 授業実践1について

ア 実践構想

道徳学習指導案

- 1 主題名 相手の本当の気持ちは「親切、思いやり」
教材名 公園のおにごっこ(出典 学研「みんなのどうとく2年」)
- 2 ねらい しんじたちがゆうたと2回目のおにごっこをするために何を話し合ったのかを考えることを通して、温かい心で年下の子と仲よく遊ぶために必要な判断力を養う。

3 主題設定の理由

(1) 道徳的価値について

小学校第1学年及び第2学年の内容項目「親切、思いやり」では、「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」とある。これは、第3学年及び第4学年「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」に発展していく。

本主題は、「温かい心で年下の子と仲よく遊ぶために必要な判断力を養う。」ことをねらいとしている。そこで、温かい心とは、相手に対してどのようなことを考えることなのかについての視点を増やし、相手へ気持ちを向けることへの理解を深めることが必要である。その結果として、親切にされた相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにすることで、道徳的価値のよさを理解し、具体的に親切な行為へ生かしていくことが大切と考える。

(2) 児童について

児童はアンケートにおいて、親切とは、主に困っている人を助けること、相手にやさしくすることだと意識しており、対象は学校の友達がほとんどである。具体例として、消しゴムを拾った、遊びに誘ったなどがあり、親切にされたことでは、一輪車を貸してくれた、泣いている時声をかけてくれたなどがある。親切にする時に、相手の様子から行動しており、相手の気持ちまでは目を向けていない傾向がある。このことから、人の気持ちを考えて行動することの大切さを理解することが必要と考える。

(3) 教材について

本教材「公園のおにごっこ」は、相手の気持ちに気付き、相手の気持ちに合わせて行動することの大切さへの考えを深めることを目的としている。

主人公のしんじたちは、みんなと同じように走れない幼稚園のゆうたとおにごっこをする。しかし、よしえやみんなは、ゆうたをつかまえようとはしなかったため、ゆうたはおにごっこをやめてしまう。そこで、みんなは、どうしてやめてしまったのかを考え、もう一度ゆうたをおにごっこに誘う。しんじがゆうたにタッチするとゆうたは元気になり、みんなも夢中になっておにごっこをするという内容の教材である。

(4) 指導にあたって

本教材を通して、小さな子と仲よくするには、相手のことや気持ちを考えることが大切であることを捉えさせたい。この授業では、しんじたちと同じように2回目のおにごっこをするために何を考えればいいのかを議論する活動を行う。この活動を通して、相手のことや気持ちを考えるよさを感じさせたい。そのため、ア～ウの工夫を行っていく。

4 研究との関わり

(1) 体験的な学習を取り入れた授業の工夫

ア 自己を見つめる場面の設定

導入場面では、自分たちの遊びを想起させ、ゆうたがジャングルジムに一人でいる教材の挿絵を提示し、仲よく遊ぶことに問題意識をもたせる。また、展開場面では、しんじたちの親切に気付かせ、相手のことを考えてもその思いが伝わらないことに共感させる。また、2回目のおにごっこを仲よく遊ぶためにしんじたちは何を考えたかを自分のこととして考えさせる。終末場面では、学習してきた思いやりに対してこれまでの自分の経験や考え方などを振り返り、自己の生き方を考えることにつなげる。

イ 多面的・多角的に考え、議論する場面の設定

展開のしんじたちの話合いを考える場面において「しんじたちはどんなことを考えれば、2回目のおにごっこはうまくいくのでしょうか。」という発問を、ペアで考えさせる。温かい心で接するには、「ゆうたの気持ち」「ゆうたが嫌だったこと(原因)」「ゆうたに合ったおにごっこ(おにごっこの仕方)」の視点が必要である。さらに、しんじたちの話合いのシナリオ(自作)を渡し、役割演技をさせる。シナリオと、自分たちの考えを比べさせることで、温かい心で相手を考える視点を増やしたり確かめたりする。また、ゆうたが元気になったことから、相手のことや気持ちを考えることの大切さを捉えさせる。

ウ 自己の生き方を考える場面の設定

友だちと仲よくするためにはどんなことが大切かについて自分の考えをまとめ、今までの生活を振り返ったり、これからの生き方を考えたりするために、ワークシートに自分の考えを整理させる。

(2) 親切、思いやりの道徳的価値を育む手立て

p. 10の【表5】親切、思いやりの道徳的価値の体系的な指導方法と手立てより、本時における親切、思いやりの道徳的価値を育む手立てを発問や活動を通して授業の中に位置付けていく。

気付く	分かる	生かす
①しんじたちの親切に気付く。 ②しんじたちが考えたことに気付く。	①相手のことや気持ちを考える視点が分かる。 ②相手のことや気持ちを考えることの大切さが分かる。	①友だちと仲よくするために、相手のことや気持ちを考えようとする。

(3) 道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた授業における基本となる学習指導過程

導入	1 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について問題意識をもち自己を見つめる場面	
	①教材や日常生活などから道徳的価値に根差した問題を意識する。 【発問】「遊んでいて、仲よく遊べなかったことはありませんか。」	
	2 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について多面的・多角的に考える場面	
展開	④道徳的価値に根差した問題場面を把握や考察する。 【気付く①】 【発問】「どうしてしんじたちは、ゆっくり走ったり、急に向きを変えたりしたのでしょうか。」	
	⑦登場人物の行動や心情などを考える。 【気付く②分かる①】 【中心発問】「しんじたちは、どんなことを考えたのでしょうか。」 【発問】「しんじたちが考えたことと、同じところや違うところ、気が付かなかったところはありませんか。」	
	⑩体験して考えたり、感じたりしたことから、道徳的価値について考える。【分かる②】 【発問】「2回目のおにごっこは、どうしてうまくいったのでしょうか。」	
	3 自己の生き方を考える場面	
終末	⑭学習した道徳的価値に自分なりの考えをまとめる。 【生かす①】 【発問】「今日の学習で、仲よく遊ぶには、どうすることが大切だと思いましたか。」	

イ 本時の実際

段階	学習活動	指導上の留意点
道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について問題意識をもち自己を見つめる場面		
導入	<p>1 遊びの場面を想起し、自分の経験を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 遊んでいて、仲よく遊べなかったことはありますか。 </div> <p>「ない。」 「あった。」 「この前あった。」</p> <p>2 本時の学習の方向性を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 今日は、仲よく遊ぶためには、どうすればいいかを考えていきましょう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> なかよく遊ぶためには、どうすればいいのかな。 </div> <p>3 教材を読み、あらすじを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> あらすじを確認するよ。しんじたちは、おにごっこをします。ゆうたは、小学生ですか。 </div> <p>「幼稚園」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 足は速いですか。 </div> <p>「遅い」 「みんなと同じようには走れない。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 遊ぶのは大好きですか。大嫌いですか。 </div> <p>「大好き」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> そこに、ゆうたがやってきておにごっこが始まるんだよね。でも、ゆうたは、つまらなくなって、一人でジャングルジムにいったんだね。それを見たしんじたちが、考えて、ゆうたを誘って、2回目のおにごっこをするんだよね。そしたら、みんな夢中になって遊んだという話でした。 </div>	<p>①教材や日常生活などから道徳的価値に根差した問題を意識する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ア 自己を見つめる。</p> <p>自分たちの遊びを想起させ、ゆうたがジャングルジムに一人でいる教材の挿絵を提示し、仲よく遊ぶことに問題意識をもたせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・仲よく遊ぶためにどうすればいいかという学習の方向性をもたせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・しんじたちのしたことに気を付けて聞くように伝え、しんじの立場から考えさせる。 ・ゆうたの設定を確認し、挿絵を板書に掲示することで、話の全体像を位置付ける。 ・ゆうたが自分たちより年下の幼稚園に通っていること、けがをして、みんなと同じように走れないこと、遊ぶことが大好きなことを確認し、自分たちの方が温かい心で接することが必要なことに気付かせる。

道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について多面的・多角的に考える場面

4 1回目のおにごっこについて議論する。

よしえは、ゆうたにどんなことをしましたか。

「わざとゆっくり走った。」

他のみんなは、ゆうたにどんなことをしましたか。

「急に向きを変えた。」

しんじたちは、意地悪でしたのかな。

「ちがう。」

「ゆうたのためを思って。」

どうして、ゆうたたちは、ゆっくり走ったり、急に向きを変えたりしたのでしょうか。

「ゆうたが、つまらなくなるから。」

「怪我しているからやさしくする。」

「無理に走らせるとまたけがをするから。」

しんじたちの気持ちはゆうたの気持ちと合ったかな。

「合わなかった。」

このままでいいかな

「だめ」

5 しんじたちが話し合ったことを考える。

◎しんじたちはどんなことを考えれば、2回目のおにごっこはうまくいくでしょうか。ペアで話し合みましょう。

◇ペア

「ゆうたちゃんは、どうしたのかな。」

「ゆうたは、ちゃんと追いかけて欲しいんだけど、追いかけてくれないから、つまんないと思った。」

「つまんない？」

「走るの遅いけど、走るの好きだから追いかけてほしいんだよ。」

話し合ったことを発表してください。

「タッチしてくれないから、タッチして欲しいと思った。」

④道徳的価値に根差した問題場面を把握し考察する。

【気付く①】

しんじたちの親切に気付く。

ア 自己を見つめる。

しんじたちの親切に気付かせ、相手のことを考えてもその思いが伝わらないことに共感させる。

・しんじたちの行為は、ゆうたのためを思った親切な行為であったことを押さえる。

・ゆうたと気持ちが合わなかったことを押さえ、しんじたちはどうすればいいのか、考える見通しをもたせる。

⑦ 登場人物の行動や心情などを考える。

【気付く②】

しんじたちが考えたことに気付く。

ア 自己を見つめる。

2回目のおにごっこを仲よく遊ぶためにしんじたちは何を考えたかを考えさせることで、しんじを通して自分の考える視点をもたせる。

【分かる①】

相手のことや気持ちを考える視点が分かる。

展開

「みんなが足を遅くして走ってたから、ゆうたがつまんないって思った。」
「親切にするのもいいけど、親切にしすぎるのもよくないなと考えた。」
「おにごっこは、タッチされたり追いかけられたりするの楽しいから、タッチとかされなくて、つまらないと思っている。」

6 役割演技をし、自分たちとしんじたちの考えを比べる。

しんじたちが話し合ったシナリオで、役割演技をしましょう。

しんじたちが考えたことと、同じところや違うところ、気が付かなかったところがありましたか。ペアで話し合しましょう。

◇ペア

「ゆうたが嫌な気持ちになったが同じ。」

「悲しい気持ちは違う。」

「タッチしようは、同じ。」

「次のおにごっこは考えなかった。」

同じところや、似ているところがありましたか。

「急に向きを変えた、わざと追いかけなかったが同じで、みんなと同じじゃないから嫌な気持ちになったんだと思います。」

「ゆうちゃんどうしたのかな、嫌な気持ちになったんじゃないかな、が同じ。気持ちを考えたのが同じ。」

「みんなと同じじゃないから、嫌な気持ちになったんだと思うが同じ。」

違うところ、書いていないことを見つけた人はいますか。

「追いかければいい、タッチすればいいが同じで、ゆうたはそうしてほしかったと思った。」

「ゆうたは悲しかったと思った。」

気が付かなかったことはありましたか。

「次のおにごっこどうすればいいかなって考えていて終わりました。」

イ 多面的・多角的に考える。

「ゆうたの気持ち」「ゆうたが嫌だったこと(原因)」「ゆうたに合ったおにごっこ(おにごっこの仕方)」の視点で考えを板書に位置付け、役割演技前に児童の考えを分類する。

・役割演技を通して、相手のことを考える一例を体験し、相手のことを考える気持ちや考えを自分と関わらせる。

イ 多面的・多角的に考える。

シナリオと、自分たちの考えを比べ、同じところ、ちがうところ、気が付かなかったところを見付けさせ、温かい心で相手を考える視点を増やしたり確かめたりさせる。

イ 多面的・多角的に考える。

全体で議論することで、自分たちの考えを確かめたり、新たな考え方に気付いたりさせる。

・仲よくするには、相手のことや気持ちなど、相手に心に向けることが大切なことに気付かせる。

・気持ちを表す言葉を増やしたり、考え方の違いがあることに目を向けさせる。

・新たな考える視点を増やし、相手の気持ちに気付くことが大切であることに気付かせる。

<p>「次のおにごっこをどうするか気が付かなかったです。」</p> <p>元気に張り切っているゆうたを見たしんじは、どんな気持ちになったでしょう。</p> <p>「元気になってよかったな。」</p> <p>「タッチしてよかった。」</p> <p>「ぼくも楽しくなってきた。」</p> <p>2回目のおにごっこは、しんじたちの気持ちとゆうたの気持ちは、合った？</p> <p>「合った」</p> <p>どうして2回目のおにごっこは、うまくいったのでしょうか。</p> <p>「みんなと同じようにしたから。」</p> <p>「みんなが話し合ったから。」</p> <p>「始めはゆうたと気持ちが合わなかったけど、2回目のおにごっこは、ゆうたのことを考えて、タッチしたりしたから気持ちが合った。」</p>	<p>・2回目の親切がゆうたに伝わったことに気付かせ、親切な行為が相手に伝わるよさと、伝わるまでの過程の大切さに目を向けさせていく。</p> <p>⑩体験して考えたり、感じたりしたことから、道徳的価値について考える。</p> <p>【分かる②】 相手のことや気持ちを考えることの大切さが分かる。</p> <p>イ 多面的・多角的に考える。 相手のことや気持ちを考えることの大切さを捉えさせる。</p>
--	--

自己の生き方を考える場面

<p>終末</p> <p>7 本時で学習した内容を振り替える。</p> <p>今日の学習で、仲よく遊ぶには、どうすることが大切だと思いましたか。</p> <p>「自分のことだけじゃなくて、人の気持ちも考える。わけは、人の気持ちも考えると自分も楽しくなるからです。」</p> <p>8 説話を聞く</p> <p>先生が小学校2年生の頃、1年生と折り紙を一緒に作る勉強がありました。その時1年生が難しいところを全部作ってあげました。そうしたら、1年生がいじけたんだよね。1年生は自分で作りたかったんだって気が付いて、教えながら一緒に作ったらとても喜んだんだ。先生も相手の気持ちを考えることは難しいけれど、とても大切だなって思いました。</p>	<p>⑭学習を振り返り、これからの自己の目標や課題を考える。</p> <p>【生かす①】 友だちと仲よくするために、相手のことや気持ちを考えようとする。</p> <p>ウ 自己の生き方を考える。 友だちと仲よくするためにはどんなことが大切かについて自分の考えをまとめ、今までの生活を振り返ったり、これからの生き方を考えたりするために、ワークシートに自分の考えを整理させる。</p>
---	--

ウ 授業の検証

(ア) 児童のアンケート結果と考察

授業実践後に行ったアンケートでは、下記のような結果が得られた。

① 自己を見つめる

a の主人公の気持ちになって考えることがあることを問う設問では、全体的に肯定的な児童が増えている。主人公を通して、道徳的価値との関わりを考えることができたといえる。また、b の自分の課題や目標を考える設問では、事前と比べ肯定的な回答の児童が増えていることから、自分と関わらせて考えたことが分かる。

② 多面的・多角的に考える

c～e の相手の考えを聞いて自分の考えを深める設問では、どの設問でも肯定的な児童の伸びが大きい。また、e の役割演技をして自分の考えがよくなったかという設問では、積極的肯定「よくある」の児童に大きな変容は見られなかった。しかし、児童の授業後の記述を見ると、自分の考えを発展させたというよりは、新しい見方や考え方に気付いたという意識であったことが要因の一つと考えられる。全体としては事前よりも肯定的な回答の児童が増えていることから、多面的・多角的に考えることができたといえる。

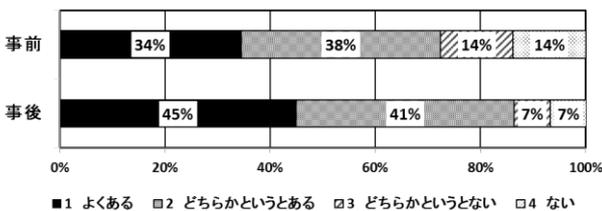
③ 自己の生き方を考える

f のこれからどのように自分で行動すればよいか考えたりする設問では、肯定的な児童が増えていることから、自分の行動を考えたことが分かる。しかし、積極的肯定「よくある」の児童は大きく変わっていない。児童の授業後の記述を見ると、具体的な行動よりも価値理解が深まったことが要因の一つと考えられる。また、より問題意識をもって道徳的価値と関わらせる授業展開の改善を意識していく必要がある。

第2学年道徳科アンケート結果

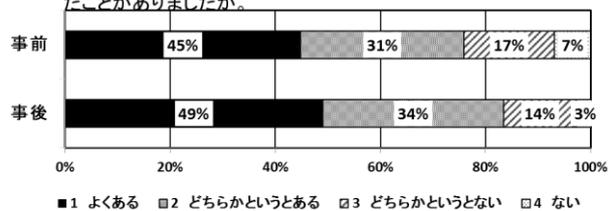
a

主人公の気持ちになって考えることはありましたか。 n=29



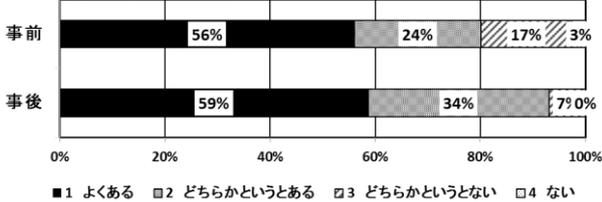
b

自分の生活を思い出したり、大切な考え方が分かったりしたことがありましたか。 n=29



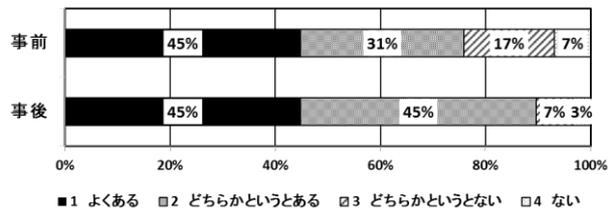
c

友だちの考えを聞いて、「なるほど」「すごい」などと思ったことはありましたか。 n=29



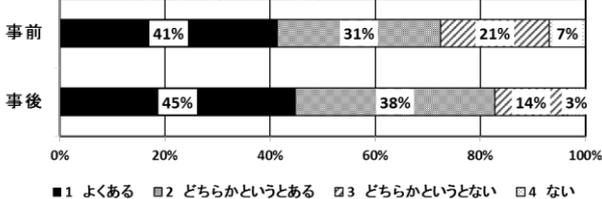
d

友だちの考えをさんこうにして、考えていましたか。 n=29



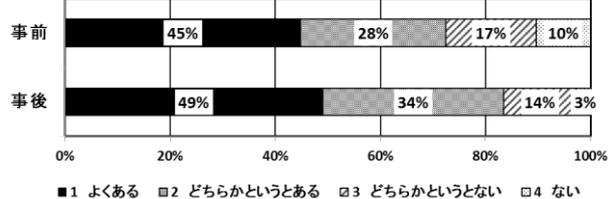
e

役割演技などの体験をすると、自分の考えがさらによくなることはありましたか。 n=29



f

道徳の学習をして、自分の生活をよくするために、なにかしようと思ったことはありましたか。 n=29



(4) 児童のワークシートの記述と3つの観点の関連

児童の振り返りの記述を「気付く」「分かる」「生かす」の3つの観点で分け、以下に記す。

【気付く】 主に道徳的価値を自分のこととして考えたり感じたりする記述	【分かる】 主に他者の感じ方や考え方から、価値理解、人間理解、他者理解を深める記述	【生かす】 主に道徳的価値を実現していかうとする思いや願いを深める記述
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自分の気持ちだけを考えないで、みんなの気持ちも考えればよかった。</u> ・ <u>まず、人の意見を聞いてから</u> いろいろ行動したり、やさしくしたりする。 ・ <u>一人が楽しくないとみんなが楽しくないから、楽しくなるように考える。</u> ・ <u>相手がつまらないと遊びから抜けていくから、楽しく遊べるように相手のことを考える。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>友達が、悲しくならぬように、さみしくならぬように遊びたい。</u> ・ <u>おにごっこやかくれんぼみたいな友達と仲よく遊ぶには、ちゃんと人の気持ちを考え、どうすればいいのかを考える。</u> ・ <u>人の気持ちを考えると、遊ぶ人が少なくならぬので、みんなが楽しく遊べる。</u> ・ <u>ちゃんと相手のことを考えて、ルールをちゃんと決める。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>相手の気持ちになって考える。親切すぎないようにする。友達の気持ちをよく考える。</u> ・ <u>つまらなくならぬようにして、みんなで楽しくしたり優しくしたり、みんなの気持ちを考えて、行動したりする。</u> ・ <u>1年生や保育園の子にいっぱい親切にしたい。</u> ・ <u>友達の気持ちを考えて、おにごっこをすると決めます。</u>

① 児童の振り返り記述の結果と考察

主に道徳的価値を自分のこととして考えたり感じたりする記述では、普段の遊びの経験からうまくいかなかったことや気を付けたいことに関する記述が見られた。主に他者の感じ方や考え方から、価値理解、人間理解、他者理解を深めた記述では、相手のことを考える視点に、嫌な気持ちにさせない、楽しめるように考えるといった具体的な相手の気持ちを表す言葉を使って記述できた。主に道徳的価値を実現していかうとする思いや願いを深める記述では、親切な行為を身近な人へ広げていかうとする記述や楽しく遊ぶために相手の気持ちを考えて遊びたいという思いを記述する児童が見られた。このことから、導入で仲よくすることに対して問題意識をもち、展開で教材と役割演技を通して思いやりを相手のことや気持ちを考えるという側面から捉えさせ、終末で自己の生き方を考えさせるという道徳的行為に関する問題解決的な学習の学習指導過程は有効であったと考える。また、相手のことや気持ちを考えて行動しようとする記述が数多く見られたことから、親切、思いやりの道徳的価値を育む手立ては有効であったと考えられる。

② 授業を通して

役割演技から、自分たちの考えと比べさせることで、相手を考える時に気持ちを表す言葉が増えたり、考える視点を増やしたり確かめたりする光景が見られた。この時、実際にシナリオで話し合う場面を役割演技することで、登場人物になりきって話したことが相手のことを考える疑似体験となり、幼い子のことを考える視点を言葉だけではなく、実感をもって増やす一助となったと考えられる。

(2) 授業実践2について

ア 実践構想

道徳学習指導案

- 1 主題名 思いやる心を伝えよう [親切, 思いやり]
教材名 心の信号機(出典 学研「みんなのどうとく4年」)
- 2 ねらい ぼくが葛藤を乗り越えて目の不自由な人に親切にした姿を通して、相手の立場を考え、行動化できない心理状況を克服し進んで親切にしようとする道徳的判断力を養う。
- 3 主題設定の理由

(1) 道徳的価値について

第3学年及び第4学年の内容項目 [親切, 思いやり] では、「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」とある。これは、第1学年及び第2学年の内容項目「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」を受けたものであり、さらに、第5学年及び6学年の内容項目「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。」に発展している。

本主題は、「相手の立場を考え、行動化できない心理状況を克服し進んで親切にしようとする道徳的判断力を養う。」ことをねらいとしている。そこで、相手の置かれている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像することによって相手のことを考え、親切にした方がいいことは分かっているにもかかわらず実行できない自分の弱さを乗り越えることが、進んで親切を行うことへの理解を深めていくことが大切であると考えます。

(2) 児童について

児童はアンケートにおいて、思いやりとは、相手の気持ちを考えること、親切とは、困っている人を助けること考えている。具体例として、ティッシュをあげた、けがした人に大丈夫と声をかけたなどであり、学校生活の中で困っている友達を助けたり手伝ったりしている。また、障がいをもつ人を手伝うかどうか迷った経験はなかった。年間計画に基づいて事前にキャップハンディ体験を行い、アイマスクを付け、白杖をついて歩く体験をしている。「こわかった」「手伝ってあげたい」と言った感想があった。このことから、相手の状況や気持ちを想像し、相手に関わらず親切にすることへの理解を深めることは、よりよい生き方を考えるうえで意義があると考えます。

(3) 教材について

本教材は、主人公のぼくが、目の不自由な人の立場に気付き、横断歩道を渡る手伝いをしようと思うが、知らない人に声をかけることへの不安で葛藤する。しかし、最後は思い切って声をかけ手助けをするという内容の教材である。

(4) 指導にあたって

本教材を通して、行動化できない心理状況を克服し思いやりのある行為を行おうとするには、相手の立場や気持ちを考えることや自分の弱さを乗り越えることが大切であることを捉えさせたい。この授業では、自分が親切しようとするきっかけは何かを議論する活動を行う。この活動を通して、親切にするには相手のことと自分のことを考える必要があり、親切にしようとするきっかけを増やしたり、見つけさせたりしていきたい。そのため、ア～ウの工夫を行っていく。

4 研究との関わり

(1) 問題解決的な学習を取り入れた授業の工夫

ア 自己を見つめる場面の設定

導入場面では、ある男の子が車いすの人を手伝った話から、どんなスイッチが入ったか考えさせ、親切スイッチはどうすれば入るのかという問題意識をもたせる。また、あらすじを確認する時、キャップハンディ体験の経験から、目の不自由な人の立場や気持ちを考えさせる。展開場面では、「みんなが僕の立場だったら、あなたの親切スイッチは、どうすれば入りますか。」と発問することで、自分の弱さに気付き、自分なりの乗り越え方に気付かせる。終末場面では、学習してきた思いやりに対してこれまでの自分の経験や考え方を振り返り、自己の生き方を考えることにつなげる。

イ 多面的・多角的に考え、議論する場面の設定

知らない人に親切にする時にある恥ずかしさや不安などといった自分の弱さを確認した後、「みんなが僕の立場だったら、あなたの親切スイッチは、どうすれば入りますか。」と発問する。自分の弱さを乗り越え親切にするためには、「勇気を出す」「相手を思う」「相手の立場を考える」などの「勇気」「親切、思いやり」といった道徳的価値から考え、議論する中で、進んで親切にするために自分に必要なことへの理解を深めていく。

ウ 自己の生き方を考える場面の設定

親切スイッチはどうすれば入るのかについて自分の考えをまとめ、今までの生活を振り返ったり、これからの生き方を考えたりするために、ワークシートに自分の考えを整理させる。

(2) 親切、思いやりの道徳的価値を育む手立て

p. 10の【表5】親切、思いやりの道徳的価値の体系的な指導方法と手立てより、本時における親切、思いやりの道徳的価値を育む手立てを発問や活動を通して授業の中に位置付けていく。

気付く	分かる	生かす
①目の不自由な人とぼくの立場や気持ちに気付く。 ②自分なりの葛藤の乗り越え方に気付く。	①行動化できない心理状況を克服し、親切にする大切さが分かる。	①自分のできる親切をしようとする。

(3) 問題解決的な学習を取り入れた授業における基本となる学習指導過程

導入	1 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について意識させる場面
	①教材や日常生活などから道徳的価値に根差した問題を意識する。 【発問】「どんなスイッチだと思いましたか。」
展開	2 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値を多面的・多角的に考え、議論する場面
	④道徳的価値に根差した問題の状況を分析する。 【気付く①】 【発問】「どうして手伝おうとしたのに、足がゆっくりになったのでしょうか。」
	⑤登場人物などの考え方や行為から、道徳的価値を考える。 【発問】「ぼくが、行動に移すことができたのは、どうしてでしょう。」
	⑨自分だったらどうするかを考える。 【分かる①】【気付く②】 【中心発問】「あなたがぼくと同じ立場だったら、手伝いたい気持ちを行動で表すための親切スイッチは何でしょうか。」
終末	3 自己を見つめ自己の生き方を考える場面
	⑭学習を振り返り、これからの自己の目標や課題を考える。 【生かす①】 【発問】「今日の学習でわかったことは何ですか。」

イ 本時の実際

段階	学習活動	指導上の留意点	
道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について問題意識をもち自己を見つめる場面			
導 入	<p>1 日常生活から道徳的価値に根差した問題を意識させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> この間本屋に行ったら、車いすのおじさんがいました。本屋の通路は狭くて、なかなか進めなくて困っていた姿を、4・5年生ぐらいの男の子がずっと見ていました。先生は、その子がどうするのかなんて思っていたら、突然近寄って行って、「おじさん手伝いますか。」と声をかけました。先生はその時、この子、スイッチが入って、知らないおじさんの車いすを押したと思ったのです。どんなスイッチだと思いましたか。 </div> <p>「やさしさスイッチ。」</p> <p>「人にやさしくするやさしさスイッチ。」</p> <p>「相手を思いやる思いやりスイッチ。」</p> <p>2 本時の学習の方向性を確認する。</p>	<p>①教材や日常生活などから道徳的価値に根差した問題を意識する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ア 自己を見つめる。 実際に教師が見た事例を紹介し、相手が困っている姿を見たら手伝おうと心が切り替わることを意識させ、そのきっかけに問題意識をもたせる。 </div> <p>・親切にするきっかけは何かということを見つけることに問題意識をもたせ、課題を設定する。</p>	
	親切スイッチをいれるには、どうすればいいのだろう。		
	<p>相手にやさしくしたいと思って、思いやりをもつと、親切にすることができるんですね。今日は、どうすれば、親切スイッチが入るのか考えていきましょう。</p>	<p>・目の不自由な人の置かれている状況を把握させ、立場や気持ちを捉えさせる。</p>	
	<p>3 教材を読み、あらすじを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> あらすじを確認します。主人公は、ぼくです。交差点で男の人に出会います。どんな人でしたか。 </div> <p>「目の不自由な人。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> みんなもキャップハンディ体験をしたよね。どんな感想をもちましたか。 </div> <p>「どこを歩いていいか分からなくて、こわかった。」</p> <p>「ぼくも、歩くのがこわかった。」</p> <p>「暗くて、緊張した。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 目の不自由な人が、柱につかまって口だけかすかに、動かしている。何を話しているんだろうね。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【気付く①】 目の不自由な人の立場と気持ちに気付く。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ア 自己を見つめる。 キャップハンディ体験の経験を生かして、目の不自由な人の立場から困難さや気持ちを考えさせることで、困っている人の気持ちを考える大切さに気付かせる。 </div> <p>・キャップハンディ体験の経験から、交差点で困っている状況とその時の気持ちに共感させる。</p>	

<p>「誰か来ないかな。」 「助けて。」 「こわい。」</p> <p>ぼくは気になって見ていたんだよね。」信号は何回変わったの。 「3回」</p> <p>ぼくは気になったけど、横断歩道を渡り始めた。その時、はっとして気が付いたんだよね。その後、横断歩道を渡って戻ったんだけど、足はゆっくりになった。でも最後は、一緒に渡ることができたんだね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは気になってはいるが、状況や相手の気持ちをまだ理解していないことを押さえる。
--	---

道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について多面的・多角的に考える場面

<p>4 主人公の気持ちや行動を考える。</p> <p>ぼくがはっとしたとき、どうしたいと思ったでしょう。</p> <p>「手伝いたい。車にひかれるから。」 「手伝ってあげたい。わけは、目の不自由な人が緊張していると思うから」 「目の不自由な人がこわいと思っているから、手伝ってあげようと思った。」 「手伝わないと、ずっと待っている。」</p> <p>どうして、手伝おうと思ったのに、足がゆっくりになってしまったのでしょうか。</p> <p>「知らない人だから緊張した。」 「知らない人だから、勇気が出ない。」 「どんな人か分からないから、様子を見よう。」 「知らない人は、恥ずかしいから」</p> <p>おじさんを手伝おうと思った親切スイッチはいつ入りましたか。</p> <p>「おじさんに近づいて、様子が分かった時」 「誰かに背中を思い切りたたかれたように決心した時。」</p> <p>おじさんは、声をかけられたとき、どんな気持ちになったと思いますか。</p> <p>「うれしいし、ほっとした。」 「赤信号でずっとこわい気持ちで待っていたから、ほっとした。」 「始めぶつぶつ言っていた時に、誰かに助け</p>	<p>④道徳的価値に根差した問題の状況を分析する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【気付く①】 ぼくの立場や気持ちに気付く。</p> </div> <p>ア 自己を見つめる。 ぼくの目の不自由な人を助けたいけど行動できないという思いに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親切スイッチをオンとオフに何度も動かすことで葛藤の意味を理解させる。 ・ぼくのきっかけを考えることで、後の自分のきっかけを考える時の見通しをもたせる。 ・ぼくと目の不自由な人の立場から心の変容を考えることで、親切にするよさを捉えさせるようにする。
--	---

展 開	<p>てもらいたくて、声をかけられて、助かってうれしくてほっとした。」</p> <p>思い切って声をかけたぼくは、どんな気持ちになったのでしょうか。</p> <p>「緊張していたと思う。」</p> <p>「ほっとしたと思う。わけは、おじさんもほっとしたからです。」</p> <p>「うれしかったと思う。おじさんがにこりとしてくれたから。」</p> <p>「2回もありがとうと言ってくれたから、手伝ってよかったと思う。」</p> <p>ぼくが、手伝いたいと思っていたけど、なかなかできなかったのに行動に移すことができたのは、どうしてでしょう。</p> <p>「ほっとけなかったから。」</p> <p>「手伝ってあげようという気持ちをもつ。」</p> <p>5 自分との関係で、問題を考える。</p> <p>◎みんなが僕の立場だったら、あなたの親切スイッチは、どうすれば入りますか。</p> <p>◇個人で考える。</p> <p>◇4人グループで議論する。</p> <p>「そこにいたら日が暮れるし、家に帰れない。もし赤信号で渡ったら、車にはねられるし、やりたいこともできなくなると思うと、手伝える。」</p> <p>「目の不自由な人が、誰も気づいてくれないと思って、悲しい気持ちになって無茶して車にひかれてしまうかもしれないと思うとスイッチが入る。」</p> <p>「目の不自由な人も大変だけど、関係ないから渡る。でも気になるから、『日が暮れますよ。』と声をかけてから信号を渡る。」</p> <p>「目の不自由な人が渡りたいけど渡れない</p>	<p>⑤登場人物などの考え方や行為から、道徳的価値を考える。</p> <p>【分かる①】 行動化できない心理状況を克服し、親切にする大切さが分かる。</p> <p>イ 多面的・多角的に考える。 相手のことを考えること、自分の弱い気持ちを乗り越えて親切にすることが、相手のためになる行為へとつながったことを理解させる。</p> <p>⑨自分だったらどうするかを考える。</p> <p>【気付く②】 自分なりの葛藤の乗り越え方に気付く。</p> <p>ア 自己を見つめる。 自分の弱さに気付き、自分なりの葛藤の乗り越え方に気付かせる。</p> <p>・ぼくの葛藤が自分にもあることを振り返り、自分だったらと考えさせることで、不安や恥ずかしさなどの自分なりの乗り越え方に気付かせる。</p> <p>・考えを交流し、葛藤の乗り越え方や親切スイッチの入れ方など、進んで親切にするための視点を増やしたり、具体的言葉で表現したりする。</p>
--------	---	--

<p>から、放っておけないから。」</p> <p>「親切にすると、考えないです。」</p> <p>「同じ考えは、ありましたか。」</p> <p>「助けるのは同じ。理由が違う。」</p> <p>「考えがよくなったり、違う考えが出たりしそう。」</p> <p>「違う考えは、思いつかないかも。」</p> <p>◇全体で議論する。</p> <p>「それぞれの考えを発表してください。」</p> <p>「迷うけど、そのままにすると相手が困るから、勇気を出して声をかける。」</p> <p>「事故にあうと大変だし、手伝えれば安心して渡れるし、手伝えてあげなかったら後悔すると思うから。」</p> <p>「助ける気持ちが大きくなって助ける。」</p> <p>「みんなの意見をまとめるとこっちは、誰の心を考えているのかな。」</p> <p>「自分。」</p> <p>「こっちは、どうですか。」</p> <p>「相手。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを交流し、葛藤の乗り越え方や親切スイッチの入れ方など、進んで親切にするための視点を増やしたり、具体的にしたりする。 ・葛藤の乗り越え方は、自分に思いを向けるものと、相手に向けるものがあることの2つの視点からまとめる。
--	--

自己の生き方を考える場面

<p>終末</p> <p>6 本時の学習を振り返る。</p> <p>「あなたが、困っている人に親切にする時に、どんなことが大切だと思いましたか。」</p> <p>「相手のことを考えて手伝えてあげることが大切だと思います。勇気を出して手伝えれば、相手の人もうれしいかもしれないし、自分もうれしくなるかもしれないからです。」</p> <p>7 説話を聞く</p> <p>「今日は、自分の親切スイッチの入れ方を考えました。でも、今すぐできそうなこともあれば、大きくなってからできることもあると思います。これからの生活で、親切スイッチが入ることを期待しています。」</p>	<p>⑭学習を振り返り、これからの自己の目標や課題を考える。</p> <p>【生かす①】 自分のできる親切をしようとする。</p> <p>ア 自己を見つめる。 学習したことに対してこれまでの自分の経験や考え方などを振り返り、自己の生き方を考えることにつなげる。</p> <p>ウ 自己の生き方を考える。 親切スイッチはどうすれば入るのかについて自分の考えをまとめ、これまでの生活を振り返ったり、これからの生き方を考えたりするために、ワークシートに自分の考えを整理させる。ワークシートに自分の考えを整理させる。</p>
--	--

ウ 授業の検証

(ア) 児童のアンケート結果と考察

授業実践後に行ったアンケートでは、下記のような結果が得られた。

① 自己を見つめる

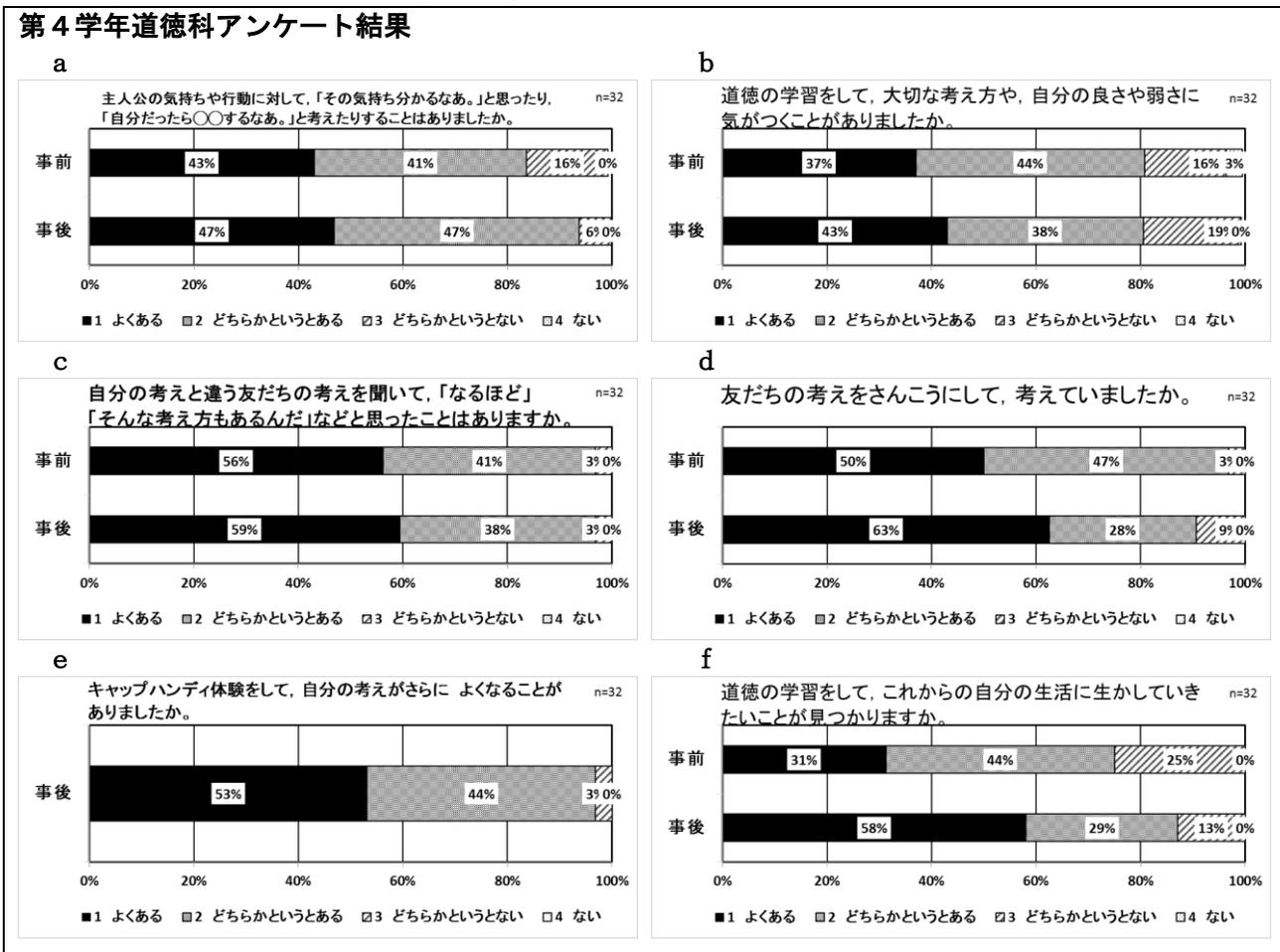
a の自分と似たようなところがある、自分だったらこうすると考えることがあることを問う設問では、肯定的に捉えた児童が全体として90%を超えている。また、bの自分の課題や目標を考える設問では、積極的肯定「よくある」の児童は増えたが、全体では大きな変化は見られなかった。しかし、児童の授業後の記述を見ると、自分のよさより弱さを乗り越えることについて考える質が高まったことも要因の一つと考えられる。

② 多面的・多角的に考える

c～dの相手の考えを聞いて自分の考えを深める設問では、どの設問でも積極的肯定「よくある」の児童が増えており、相手の意見を聞き、多面的・多角的に考えることができたといえる。特に、相手の考えを参考にして考えた児童が、事前の半数からおよそ3分の2にあたる63%に増えており、他者の考えを取り入れて考えていたことが分かる。また、eの事前にキャップハンディ体験をしたことが考えをよくすることに役立ったかという設問に対して、ほとんどの子が肯定的に答えている。このことから、目の不自由な人の立場や気持ちを共通認識したことが、多面的・多角的に考える要因の一つになったと考えられる。

③ 自己の生き方を考える

fのこれからどのように自分で行動すればよいか考えたりする設問では、積極的肯定「よくある」の児童が、事前の31%から58%とおよそ倍に増えたことにより、自分の生き方についてより自分事として考えたことが分かる。



(4) 児童のワークシートの記述と3つの観点の関連

児童の振り返りの記述を「気付く」「分かる」「生かす」の3つの観点で分け、以下に記す。

【気付く】 主に道徳的価値を自分のこととして考えたり感じたりする記述	【分かる】 主に他者の感じ方や考え方から、価値理解、人間理解、他者理解を深める記述	【生かす】 主に道徳的価値を実現していこうとする思いや願いを深める記述
<ul style="list-style-type: none"> ・<u>勇気を出して親切にしたい</u>と思いました。わけは、<u>今まで自分は恥ずかしくてできなかったから</u>です。 ・<u>前におばあさんが荷物を持って大変そうだから声をかけようとしたけど、勇気が出なくて助けられないことがあったので、これからは相手の心も考えて助けよう</u>と思います。 ・<u>手伝うまでに少し時間がかかり</u>そうです。でも、<u>勇気を出して話そう</u>と思います。何もしなかったら自分も不安になるからです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>相手を嫌な気持ちにしないこと。親切にする前に、どうしたらいいか考えること。</u>(親切にする時、考えないでしていると発言した児童の変容) ・<u>助け合うのが大切だ</u>と思いました。困っている人を放っていたら困ったままだからです。(日が暮れますよと声をかけて自分は渡ると考えていた児童の変容) ・<u>勇気を出して手伝えば、相手の人もうれしいかもしれないし、助けてあげた自分もうれしくなるかもしれない</u>と思ったからです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>目とか耳とか不自由な人がいたら緊張するけど、思い切って助けたい</u>と思いました。<u>車いすをおしてあげたり、いろんなことをして助けたい</u>です。 ・<u>まず相手の心を考えて、できる限りのことをしてあげたい</u>と思いました。 ・<u>相手の気持ちを考えて、自分がどうしたらいいかという自分の心も考えて行動</u>することが大切だと思いました。相手はどうしたいか考えないと、自分の気持ちとつながらないからです。

① 児童の振り返り記述の結果と考察

児童は、主に道徳的価値を自分のこととして考えたり感じたりする記述では、今まで声をかけられなかった経験を振り返ったり、自分の弱さを課題として目標を立てる記述が見られた。主に他者の感じ方や考え方から、価値理解、人間理解、他者理解を深めた記述では、葛藤を乗り越える難しさや大切さ、手伝うことができたならお互いがうれしいという親切のよさに関する記述が見られた。主に道徳的価値を実現していこうとする思いや願いを深める記述では、親切にする前に考えることや実際にできそうなことなど、これからの生き方への目標を書いた児童が多く見られた。このことから、導入で親切にするきっかけに対して問題意識をもち、展開で教材を通して親切にするためには、「勇気」「思いやり」が必要ということをつまみさせ、終末で自己の生き方を考えさせるという問題解決的な学習の学習指導過程は有効であったと考えられる。また、相手の立場を考え、自分から親切にしようとする記述が数多く見られたことから、親切、思いやりの道徳的価値を育む手立ては有効であったと考えられる。

② 授業を通して

「みんなが僕の立場だったら、あなたの親切スイッチは、どうすれば入りますか。」と発問し、グループ、全体で議論させた。この時、児童は目の不自由な人が本当に困っている、こわいと思っているといった立場や気持ちを理解した上で考えていた。これは、キャップハンディ体験を事前に行ったことで相手の立場や気持ちを考えやすくなったためと考えられる。このことから、キャップハンディ体験と関連させたことは、効果的であったと考えられる。

(3) 授業実践3について

ア 実践構想

道徳学習指導案

1 主題名 人への思いやり [親切, 思いやり]

教材名 車いすでの経験から(出典 東京書籍 小学校道徳6年「明日をめざして」)

2 ねらい 駅員さんたちのぼくや母に対する思いやりを考えることを通して、相手の立場に立って考える意義が分かり、誰に対しても親切にしようとする道徳的心情を育む。

3 主題設定の理由

(1) 道徳的価値について

第5学年及び6学年の内容項目「親切, 思いやり」では、「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。」とある。これは、中学校の内容項目[思いやり, 感謝]の「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。」へと発展していく。

本主題は、「相手の立場に立って考える意義がわかり、誰に対しても親切にしようとする道徳的心情を育む。」ことをねらいとしている。そこで、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることの意義に気付かせ、誰に対しても親切にしていくよさへの理解を深めたい。

(2) 児童について

児童は事前アンケートにおいて、思いやりとは、相手の気持ちを考えること、親切とは、困っている人を助けることという意識があり、対象は学校の友達がほとんどである。相手を手伝う時、相手の立場に立って考えた行為をしようとする意識は少ない。親切は、相手へ思いやりを届ける行為であり、その相手を思う心への理解を深めていくことは、さらによりよい生き方を送ることにつながっていくと考える。

(3) 教材について

本教材は、東京書籍小学校道徳6年「明日をめざして」に収録されている読み物教材である。

主人公のぼくは、車いすで電車に乗って帰宅しなければならず、不安に思う。しかし、駅員さんに車いすを持ってもらったり、次の駅に連絡してくれたり様々な親切を受ける。その経験から、知らないおばあさんにも声をかけて手伝えるようになったという内容の教材である。

(4) 指導にあたって

本教材を通して、ただ親切にしようとするのではなく、相手の立場や気持ちを推し量り、相手のためにどのように行動すればいいのかを考えて行為に表そうとする思いやりを考えさせたい。この思いやりを「1つ先の思いやり」とし、ぼくと母に向けられた駅員さんの思いやりから、困っている人がいるから手伝おうと思うだけでなく、そこに、相手のためにどうすることがいいのかと考える思いやりが大切なことに気付かせたい。また、ぼくが駅員さんの思いやりを受け取って知らないおばあさんにも自然に手伝えるようになったことから、相手の思いやりが伝わると、その思いやりを誰かに届けたくなり、思いやりがつながっていくよさを捉えさせ、集団や社会との関わりに目を向けさせていきたい。この授業では、駅員さんの思いやりが伝わる親切を見つけ、その気持ちから、思いやりとは何かを議論する活動を行う。この活動を通して、相手のことや気持ちを考えるよさを感じさせたい。

4 研究との関わり

(1) 問題解決的な学習を取り入れた授業の工夫

ア 自己を見つめる場面の設定

導入場面では、事前アンケートから親切、思いやりの道徳的価値への理解が不十分であることに気付かせ、問題意識をもたせる。展開場面では、ぼくと母の不安な気持ちから駅員さんを手伝って欲しいことを考えさせ、それに応えることが自分たちの価値理解であったことに気付かせる。また、駅員さんの親切から、自分たちの理解と異なる相手の立場に立って考えた行為をしようとする思いやりに気付かせる。終末場面では、学習してきた思いやりに対してこれまでの自分の経験や考え方などを振り返り、自己の生き方を考えることにつなげる。

イ 多面的・多角的に考え、議論する場面の設定

駅員さんのぼくや母への気遣い分かる親切な行為を見つけ、その親切に至る思いやりを多面的・多角的に捉えさせる。駅員さんの思いやりには、不安な心を安心させようとする、相手が困ることを予想して困らないようにしようとする、相手が喜ぶような行為をしようとするなどの相手の立場に立って考えた行為をしようとする思いやりがある。また、ぼくがこの経験から知らない人でも自然と手伝えるようになったことに着目させ、思いやりのある行為は広がっていくという面も捉えさせる。

ウ 自己の生き方を考える場面の設定

1つ先の思いやりについて自分の考えをまとめ、今までの生活を振り返ったり、これからの生き方を考えたりするために、ワークシートに自分の考えを整理させる。

(2) 親切、思いやりの道徳的価値を育む手立て

p. 10の【表5】親切、思いやりの道徳的価値の体系的な指導方法と手立てより、本時における親切、思いやりの道徳的価値を育む手立てを発問や活動を通して授業の中に位置付けていく。

気付く	分かる	生かす
①ぼくと母の車いすで電車を利用する不安に気付く。 ②駅員さんの親切から、ぼくや母への思いやりに気付く。	①駅員さんの思いやりの意義がわかる。 ②ぼくが思いやりを社会へ広げたよさが分かる。	①自分なりの思いやりや親切の生かし方を考える。

(3) 問題解決的な学習を取り入れた授業における学習過程

導 入	1 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について問題意識をもち自己を見つめる場面 ②道徳的価値の本当の意味や意義を考える。 【発問】「困っているのは同じなのに、どうして違う親切が生まれてきたのだろう。」
	2 道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について多面的・多角的に考える場面 ④道徳的問題の状況を分析する。 【気付く①】 【発問】「母は、駅員さんにどんなことをしてほしいと思っていたでしょう。」 ⑤登場人物などの考え方や行為から、道徳的価値を考える。 【気付く②】 【中心発問】「駅員さんたちの1つ先の思いやりが分かる親切とその時の気持ちを考えましょう。」
展 開	⑧道徳的価値について考える。 【分かる①】 【発問】「1つ先の思いやりとは、何でしょうか。」 ⑩道徳的価値について、さらに深める。 【分かる②】 【発問】「どうしてぼくは、おばあさんに自然に声をかけることができるようになったのでしょうか。」
	3 自己の生き方を考える場面 ⑭学習を振り返り、これからの自己の目標や課題を考える。 【生かす①】 【発問】「今日の学習でわかったことは何ですか。」
	終 末

イ 本時の実際

段階	学習活動	指導上の留意点
<p>道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について問題意識をもち自己を見つめる場面</p>		
<p>導入</p>	<p>1 道徳的価値の本当の意味や意義を考える。</p> <p>勉強で難しい問題に困っていた友達に教える。わからない部分だけ教える。わかりやすく教える。教えようかと声をかけるの4つがあったんだよね。同じ教えるでも、違う。どうして違う親切が生まれたのかな。</p> <p>「それぞれの人の考え方によって違う。」 「それぞれの人に合う親切を考えたから。」</p> <p>2 本時の学習の方向性を確認する。</p> <p>相手のことや気持ちを考えて、この思いやりから1つ考えて親切にしたということですね。今日は、この思いやりの1つ先の思いやりについて考えていきましょう。</p>	<p>②道徳的価値の本当の意味や意義を考える。</p> <p>ア 自己を見つめる。</p> <p>事前アンケートから思いやりを相手のことや気持ちを考えること、親切を困っている人を助けることと捉えていたことを紹介し、親切にしたことの具体的な記述から、困っていることは同じなのに親切が違うのはなぜかを考えさせることで、困っているから手伝うではなく、相手のことや気持ちを考えた先に、親切につながる思いやりがあることに気付かせ、問題意識をもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の立場に立って考えた行為をしようとする思いやりを1つ先の思いやりと呼び、どんな思いやりなのかを考えていく学習の方向付けをする。
	<p>1つ先の思いやりとは何だろう。</p>	
	<p>3 教材を読み、あらすじを確認する</p> <p>あらすじを確認します。主人公は、ぼくです。ぼくは、どうして病院にいるの。</p> <p>「骨折してるから。」</p> <p>何に乗っているの。</p> <p>「車いす。」</p> <p>外泊許可がおりたよね。ぼくは、どんな気持ちになりましたか。</p> <p>「うれしい。」 「すぐ帰りたい。」</p> <p>そんなぼくを見て、母は心配しているんだよね。どんな心配しているの。</p> <p>「階段の上り下り」 「電車の乗り降り」 「わたし一人の力でできるか」</p> <p>2人は駅員さんに親切にされて帰ることができた。そして、この経験からぼくは知らないおばあさんにも自然と声をかけて手伝えるようになったという話です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 読む前に、駅員さんの思いやりを考えていくため、駅員さんの親切に気を付けて聞くように指示を出す。 あらすじの確認では、駅に行く前のぼくと母の置かれている状況を主に把握し、展開場面での二人の気持ちの読み取りにつなげる。 全体の内容とぼくの変容が分かるように挿絵を板書に位置付ける。

4 ぼくと母の気持ちを考える

母は、駅員さんにどんなことをしてほしいかと思っていたでしょう。

「手伝って欲しい。車いすだから。」

「大変だから、電車の乗り降りを手伝ってほしい。」

「電車に乗る時、降りる時手伝ってほしい。」

手伝って欲しいから、手伝う。困っていることを手伝うが、今までの考え方でしたね。

5 駅員さんたちの1つ先の思いやりについて議論する。

駅員さんたちの1つ先の思いやりが分かる親切とその時の気持ちを考えましょう。

◇個人で考える。

◇4人グループで議論する。

「仕事ですから」は、母が迷惑をかけていると思っているのを、少し気持ちを軽くするためだと思う。」

「え。何で。」

「仕事だからじゃないの。」

「いい。そう言われれば、いっかなって思うでしょ。迷惑じゃない感じがするでしょ。」

「なるほど。」

◇全体で議論する。

・ホームで待つ

「降りる時や階段の上り下りに困らないようにするためです。」

・連絡しておく

「母が心配しているから、心配をなくすために次の駅の階段の上り下りとか手伝えるように。」

「自分の任務だと思ってしっかりやろう。」

・心配いらない

「母が駅員さんに迷惑をかけたという思いを和らげるために言ったんだと思う。」

・笑顔

④道徳的価値に根差した問題の状況を分析する。

【気付く①】

ぼくと母の車いすで電車を利用する不安な気持ちに気付く。

ア 自己を見つめる【気付く】

ぼくと母の不安な気持ちから駅員さんに手伝ってほしいことを考えさせ、それに答えることが、児童の価値理解であったことに気付かせる。

⑤登場人物などの考え方や行為から、道徳的価値を考える。

【気付く②】

駅員さんの親切から、ぼくや母への思いやり気付く。

ア 自己を見つめる。

駅員さんの親切から、児童の価値理解と異なる、相手の立場に立って考えた行為をしようとする思いやり気付かせる。

イ 多面的・多角的に考える。

不安な心を安心させようとする、相手が困ることを予想して困らないようにしようとする、相手が喜ぶような行為をしようとするなどの相手の立場に立って考えた行為をしようとする思いやりを捉えさせる。

◇個人で考える。

・駅員さんたちの親切から、ぼくと母に向けた気持ちを考え、自分の考えをもたせる。

◇4人グループで議論する。

・考えを交流する中で、同じ、違うといった視点から考えたり、友だちの考えに付け加えたりすることで、考えを共有し発展させる。

◇全体で議論する。

・グループの中だけでは出会うことのなかった考えから考えを深めたり広げたりする中

展開

- 「違う所なんだけど、心を和らげるは同じで、笑顔も心を和らげるためだと思う。」
- ・いくらでもお手伝いします。
「お母さんの心を和らげると思います。」
 - ・ホームまで一緒に行きますから
「お母さんが電車に乗れますかと言っただけなのに、ホームまで一緒に行くと言って、手伝ってあげたり、お母さんのに身になって言ったんだと思う。」
 - ・仕事ですから
「母が迷惑かけてすみませんといっているから、そういわれると、それならいいかなと少し心が軽くなる。」

6 1つ先の思いやりについて議論する。

1つ先の思いやりとは何でしょうか。

◇4人グループ

- 「相手のことを思って先を読んで行動すること。」
「自分のことだと思い、やられてうれしいことをする。」
「自分がうれしいと思うことをする。」
「相手がこういうことをしたら助かるだろうということを考えて行動する。」
「思いやりにプラス1, 2するんだ。」

◇全体

- 「先のことを考えることだと思います。」
「相手のことを考え、相手がしてほしいことを言われる前にするだと思います。」
「相手がうれしいと思うことをするです。」
「相手がこういうことをしたら助かるだろうなと考えてするだと思う。」
「相手を楽にすることだと思う。」
「相手が何をすれば喜ぶのかを先に気付くこと。」

どうして「おばあさん、荷物もちましようか。」と自然に声をかけることができるようになったのでしょうか。

「駅員さんにやさしくしてもらったから、それを伝えたくなった。」

- で、駅員さんの相手のことを思う様々な気持ちに共感させたり、気付かせたりする。
- ・ぼくや母の不安や気持ちの変化などを根拠に目を向けさせる。
 - ・駅員さんの「仕事だから」という考え方には最後にピックアップして扱い、相手を思う気持ちが行為で表されていることを押さえる。

⑧道徳的価値について考える。

【分かる①】

駅員さんの思いやりの意義が分かる。

イ 多面的・多角的に考える。

不安な心を安心させようとする、相手が困ることを予想して困らないようにしようとする、相手が喜ぶような行為をしようとするなどの思いやりの共通点から、相手の立場に立って考えた行為をしようとする思いやりを捉えさせる。

◇グループで議論する。

- ・駅員さんたちの親切に共通することから、相手のことや気持ちを考えた行為をしようとする目に向けさせ、自分なりの思いやりの捉え方をまとめていく。

◇全体で議論する。

- ・議論したことから、相手のことや気持ちを考えた行為をしようすることを様々な視点から捉える。

⑩道徳的価値について、さらに深める。

【分かる②】

ぼくが思いやりを社会へ広げたよさが分かる。

	<p>「おばあさんにも自分のようにやさしくしてあげたくなった。」</p> <p>「ぼくが親切にされたことを他の人にもしたくなった。」</p> <p>そうするとこの駅員さんの思いやりがぼくに伝わって、思いやりがどうになりましたか。</p> <p>「続いた。」</p> <p>「連鎖した。」</p>	<p>イ 多面的・多角的に考える。</p> <p>ぼくの行動は、駅員さんの思いやりから生まれた行動であり、親切にされると自分も誰かに親切にしたいくなることに共感させ、その思いやりがつながるよさを感じ取らせる。</p>
<p>自己の生き方を考える場面</p>		
<p>終末</p>	<p>7 本時の学習を振り返る。</p> <p>今日の学習でわかったことを書きましよう。</p> <p>「今日の学習でわかったことは、私が他の人に思いやる気持ちで接し、親切(助けてあげたり、教えてあげたり)をしてあげることによって、その思いやり、親切は「思いやりの連鎖」となって、人から人へと移っていくんだということが学びました。私は今まで、「6年生だから」「高学年だから」という言葉がついて回っていると思っていたけれど、思いやりや親切は違うなと思いました。こういう親切、思いやりは、自然とできるから本当の親切、思いやりなんだと思い直しました。これからは、相手に合う親切を自然とできる高学年になれるようにしようと思いました。」</p> <p>今日勉強した、1つ先の思いやりを実践してってください。楽しみにしています。</p>	<p>⑭学習を振り返り、これからの自己の目標や課題を考える。</p> <p>【生かす①】 自分なりの思いやりや親切の生かし方を考える。</p> <p>ア 自己を見つめる。</p> <p>学習してきた思いやりに対してこれまでの自分の経験や考え方などを振り返り、自己の生き方を考えることにつなげる。</p> <p>ウ 自己の生き方を考える。</p> <p>1つ先の思いやりについて自分の考えをまとめ、これまでの生活を振り返ったり、これからの生き方を考えたりするために、ワークシートに自分の考えを整理させる。</p>

ウ 授業の検証

(ア) 児童のアンケート結果と考察

授業実践後に行ったアンケートでは、次のような結果が得られた。

① 自己を見つめる

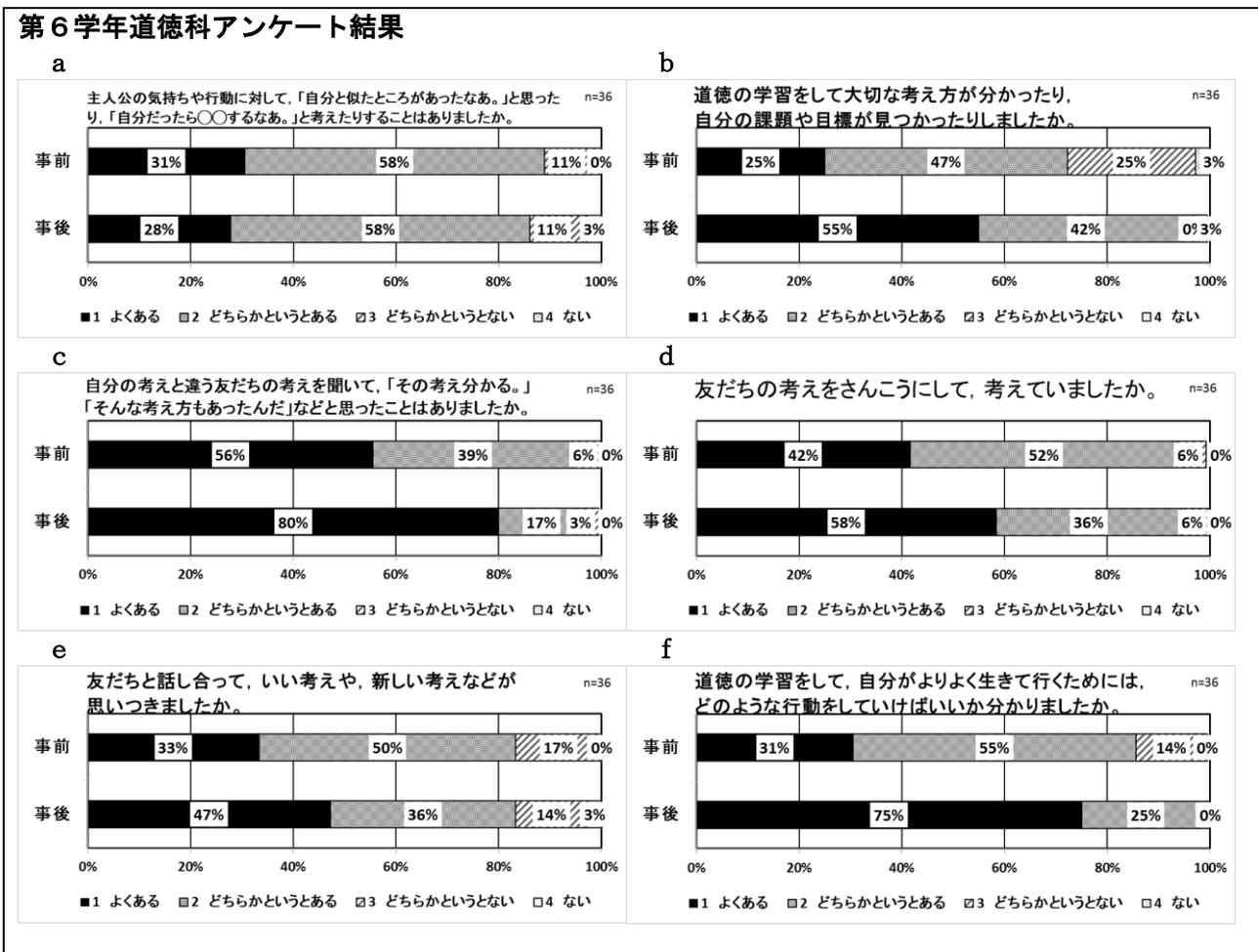
bの自分の課題や目標を考える設問では、積極的肯定「よくある」の子が30%の増加となり、より自分のことを考えたことが分かる。また、aの自分と似たようなところがある、自分だったらこうすると考えることがあることを問う設問では、全体として80%を超えているが、事後の方が積極的肯定「よくある」の児童が減少した。しかし、児童の授業後の記述を見ると、内容が深まっており、「自分だったらどうするか」について考える質が高まったことも要因の一つと考えられる。今後、人間理解、他者理解が深まり価値理解につながるような授業展開の改善を意識していく必要がある。

② 多面的・多角的に考える

c～eの相手の考えを聞いて自分の考えを深める設問では、どの設問でも積極的肯定「よくある」の児童が非常に増えており、相手の意見を聞き、多面的・多角的に考えることができたといえる。

③ 自己の生き方を考える

fの自分の課題を見つけたり、これからどのように自分で行動すればよいか考えたりする設問では、積極的肯定「よくある」の児童が、事前の31%が44%増加し75%となり、否定的な児童は0%となったことから、児童がより自分のこととして考えたことが分かる。



(イ) 児童のワークシートの記述と3つの観点との関連

児童の振り返りの記述を「気付く」「分かる」「生かす」の3つの観点で分け、以下に記す。

【気付く】 主に道徳的価値を自分のこととして考えたり感じたりする記述	【分かる】 主に他者の感じ方や考え方から、価値理解、人間理解、他者理解を深める記述	【生かす】 主に道徳的価値を実現していかうとする思いや願いを深める記述
<ul style="list-style-type: none"> ・<u>困っている人を助けるのが親切だと思っていたけれど、相手の気持ちになり、自分がされてうれしいことをしようと思った。</u> ・<u>私は話すのが苦手で、困っている人がいても声をかけづらけれど、思いやる心を強くもち、話しかけること＋αで助けることができるようになりたい。</u> ・<u>私も周りの人たちにたくさん親切にされているから「今」があるのだと改めて感じた。自分は親切にできただろうか。これからは、親切にしていきたい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>先のことを考えての行動や優しさ等、みんなからでた意見に深く納得することができた。4人グループで議論する時に教えてもらったり、みんなから出た意見と合わせて考えてみたりしてわかった。</u> ・<u>私が他の人に思いやる気持ちで接し、親切(助けてあげたり、教えてあげたり)をしてあげることで、その思いやり、親切は「思いやりの連鎖」となって、人から人へと移っていくんだということが学べました。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>その人の身になって物事を考えて、その場に合った判断をして行動に移す。そんな親切を胸に、過ごしていきたいと心から感じた。</u> ・<u>学校の中でも外でもいろいろな場所でも困っている人がいたら積極的に声をかけて助けるように1つ先の思いやりをしようと思いました。</u> ・<u>私も駅員さんのように先のことを考えて、心配や不安などを少しでも和らげるようなことをして、人の立場になって、親切ができるようになりたい。</u>

① 児童の振り返り記述の結果と考察

児童は、主に道徳的価値を自分のこととして考えたり感じたりする記述では、思いやりの道徳的価値を捉え直したり、家族や友達の思いやりの中で生きていることに気付いたりした記述が見られた。主に他者の感じ方や考え方から、価値理解、人間理解、他者理解を深めた記述では、相手の立場に立って考えた行為をしようとする思いやりの意義や思いやりが広がるよさなどに理解を深める記述が見られた。主に道徳的価値を実現していかうとする思いや願いを深める記述では、自己の課題や目標を記述したりしている児童が多く見られた。このことから、導入で思いやりの道徳的価値の捉えに対して問題意識をもち、展開で教材を通して思いやりを相手の立場に立って考えた行為をしようとする、広げるよさという側面から多面的・多角的に考え、議論し、終末で自己の生き方を考えさせるという問題解決的な学習の学習指導過程は有効であったと考えられる。また、思いやる人を広げ、相手の立場に立って親切にしようとする記述が数多く見られたことから、親切、思いやりの道徳的価値を育む手立ては有効であったと考えられる。

② 授業を通して

駅員さんの思いやりから、「1つ先の思いやりとは何だろう。」と発問し、グループ、全体で議論させた。児童同士が多様な考えを議論することを通して、考える視点を増やしたり、考えを発展させたりする光景が見られた。この時、相手の考えを尊重して議論することも、思いやりを育む一助となったと考えられる。

Ⅷ 研究のまとめ

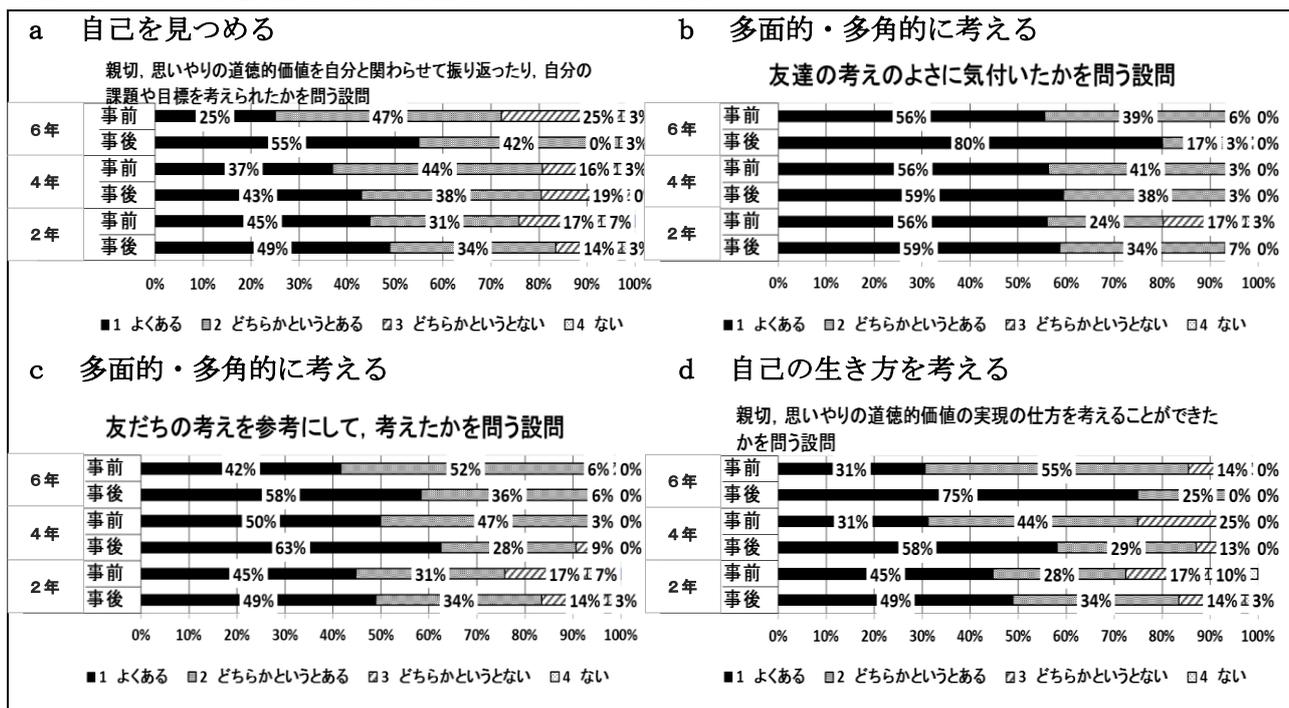
1 児童のアンケート結果と考察

授業実践後に行った2, 4, 6年生のアンケートの結果を「自己を見つめる」「多面的・多角的に考える」「自己の生き方を考える」の3つの学習活動にまとめ、【図3】に示す。

aの親切、思いやりの道徳的価値を自分と関わらせ、自分の課題や目標を考えたかを問う設問では、どの学年でも事前アンケートより、肯定的な回答をした児童が増えている。このことから、児童が、親切、思いやりの道徳的価値を自分の生活や経験と関わらせ、自己を振り返ったりこれからの見通しをもったりしたことが分かる。これは、親切、思いやりの道徳的価値と自分との関わりを考える活動を、導入、展開、終末の学習指導過程に位置付けたことが効果的であったためと考えられる。また、bの友だちの考えを聞いてそのよさに気付いたかを問う設問、cの友だちの考えを参考にして考えたかを問う設問では、どの学年でも事前アンケートより、肯定的な回答をした児童が増えている。このことから、児童は、関心をもって友だちの考えを聞き、友達の考えも参考にしながら多面的・多角的に考えることで自分の考えを深めたり発展させたりしていったことが分かる。これは、授業の課題を児童にとって身近に考えることができるようにすることで、学習活動を通して自分のこととして考えやすくなったり、議論する中で友達の考えも聞きたくなったりしたためと考えられる。そして、dの親切、思いやりの道徳的価値の実現の仕方を考えることができたかを問う設問では、どの学年でも事前アンケートより、肯定的な回答をした児童が増えている。このことから、児童が、親切、思いやりの道徳的価値を理解し、自分ごととして捉えることで、これからの生活や生き方を考えたことが分かる。これは、児童が、自己を見つめる学習活動、多面的・多角的に考える学習活動に主体的に取り組み、自分なりの親切、思いやりの道徳的価値への理解を深めることで、道徳的实践意欲も高まったと考えられる。

これらのことから、「自己を見つめる」「多面的・多角的に考える」「自己の生き方を考える」の3つの学習活動を位置付けた問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の学習指導過程は、「考え、議論する」道徳科授業の指導方法として有効であったと考えられる。

【図3】 3つの学習活動に関する全体のアンケート結果



2 児童の振り返りの記述結果と考察

事前アンケート、授業中の発言と授業実践後に行った児童の振り返りの記述から、児童の変容が明らかだった記述を「気付く」「分かる」「生かす」の3つの観点にまとめ、2、4、6年生の学年ごとに【図4】に示す。

児童の多くは、「自己を見つめる」「多面的・多角的に考える」「自己の生き方を考える」学習活動を行うことで、【気付く】【分かる】【生かす】という観点をそれぞれ関わらせながら、道徳的価値を自分との関わりから深めたり、多面的な見方へと発展させたりしていた。

このことから、「自己を見つめる」「多面的・多角的に考える」「自己の生き方を考える」の3つの学習活動を位置付け、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた学習指導過程は、「考え、議論する」道徳科授業の指導方法として有効であったと考えられる。同様に、低・中・高学年ごとに体系的にめざす親切、思いやりの道徳的価値に沿った児童の振り返りの記述が見られたことから、親切、思いやりの道徳的価値の体系的な指導方法と手立ては効果的であったと考えられる。

【図4】児童の事前アンケート、発言と振り返りの記述の比較

		【気付く】	【分かる】	【生かす】
		主に道徳的価値を自分のこととして考えたり感じたりする記述	主に他者の感じ方や考え方から、価値理解、人間理解、他者理解を深めた記述	主に道徳的価値を実現していこうとする思いや願いを深める記述
6年生	発言 事前アンケート	A児(ア) 友だちや1年生に親切にしていると思います。 B児(ア) 困っている人を助けたり、気持ちを察したりすることが親切、思いやりだと思う。	C児(ア) 思いやりとは、人を気遣う心、安心させる心。 D児(ア) 親切、思いやりは、相手のことを考えることだと思う。	E児(ア) 地域の人との交流を深めることで思いやりを増やしていき、困っている人に親切にしたい。 F児(ア) 親切されたら、自分も親切にしようと思う。
	振り返りの記述	A児 今までの自分は1つ先のことまで考えず、行動していました。 B児 「6年生だから」「高学年だから」という気持ちですのではなく、自然とできることが本当の親切、思いやりだと思った。	C児 その人の身になって物事を考えて、その場に合った判断をして行動に移すことが大切です。 D児 ただ助けるだけでなく、先のことを考えた上で、される人がうれしくなるような親切をしたい。	E児 相手に「ありがとう」と言ってもらえるような人になり、大人になったら、もっと多くの人を1つ先の思いやりでいっぱいになりたい。 F児 学校の中でも外でも、困っている人がいたら積極的に声をかけて助けるようにしたい。

4年生	発言 事前アンケート	G児(発) 親切にする時、考えないで行動している。 H児(発) 知らない人や周りに人がいないと勇気が出なくて、声をかけづらい。	I児(発) 目の不自由な人を見たら、「日が暮れますよ。」と声をかけて自分は渡る。 J児(発) 困っている人は、助けなければいけない。	K児(発) 優しくしないと、しょうがなくやっていると思われるから、優しくする。 L児(発) 手伝うかどうか迷う。
	振り返りの記述	G児 相手を嫌な気持ちにしないこと。親切にする前に、どうしたらいいか考えること。 H児 相手の心も大切、自分の心も大切、でも勇気も大切。ぼくが手伝わないと、相手が大変だし、自分が後悔するから手伝う。	I児 助け合うのが大切だと思いました。困っている人を放っておいたら困っているまんまだからです。 J児 相手の心を考えることが大切だと思いました。	K児 相手に分かりやすい声で話しかけて、ちゃんと相手を見て行動したい。 L児 自分には、勇気が大切だと思しました。勇気があれば手伝えそうです。
2年生	発言 事前アンケート	M児(ア) 全然親切にしていない。 N児(発) 嫌なことされると、遊びを止めたくなる。	O児(発) みんなと同じように、タッチして追いかければいい。 P児(発) ゆっくり追いかけてたりしたのがよくなかった。	Q児(ア) 小さい子にやさしくしたい。 R児(発) 仲よく遊べなかったことがある。
	振り返りの記述	M児 相手の気持ちになって考える。親切すぎないようにする。友達の気持ちをよく考える。 N児 友達も楽しくなることが大切だと思う。	O児 人の気持ちも考えると自分も楽しくなるから、自分のことだけじゃなくて、人の気持ちも考える。 P児 みんなで、楽しくしたりやさしくしたりするために、みんなの気持ちを考えて行動する。	Q児 友達が、悲しくならないように、さみしくならないように遊びたい。 R児 友達の気持ちを考えて、おにごっこをすると決めます。

※児童の事前アンケートの記述を(ア)、児童の発言を(発)と記す。

3 全体考察

本研究では、児童の親切、思いやりの道徳的価値の理解を各学年の発達段階に応じて体系的に深めるために、低・中・高学年の内容項目と発達段階と特性に応じた問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた授業実践を通して、小学校における「考え、議論する」道徳科授業の在り方を明らかにしてきた。

検証結果から、「考え、議論する」道徳授業を行うことにより、児童が道徳的価値を自分との関わりと結び付けて振り返り自分の課題や目標に気付いたり、よりよく生きようとする思いが高まったりすることを確認できた。また、考え議論する中で、他者の考えの良さに気付いたり、参考にして考えたりするようになり、多面的・多角的思考の中で考えが深まることを確認できた。

授業実践では、親切、思いやりの道徳的価値に根差した問題や道徳的価値について問題意識をもち、道徳的価値の自分の捉えを他者と議論することで、道徳的価値の理解を深めたり広げたりし、道徳的価値を実現するための自己の生き方を考える児童の姿を確認できた。同様に、低・中・高学年ごとに、めざす親切、思いやりの道徳的価値のねらいに沿った、児童の発言や振り返りの記述が見られた。

このことから、体系的に親切、思いやりの道徳的価値を育むために手立てと問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の学習指導過程を授業の展開で取り入れることで、小学校における「考え、議論する」道徳科授業の有効性が明らかになったと考えられる。

4 研究の成果

- ・道徳的価値について、自己を見つめる学習活動を学習指導過程の中に位置付けることで、親切、思いやりの価値内容を自分と関わらせて捉えることができた。
- ・道徳的価値について、多面的・多角的に考え、議論する学習活動を学習指導過程の中に位置付けることで、道徳的価値への理解を深めたり、広げたりしたことを確認することができた。
- ・道徳的価値について自己を見つめ、多面的・多角的に考え、議論した後に自己の生き方を考える学習活動を学習指導過程の中に位置付けることで、道徳的価値を自己の生き方に生かそうとする思いをもつことを確認することができた。
- ・親切、思いやりの道徳的価値を体系的に理解させ深めさせるために、道徳的価値を「気付く」「分かる」「生かす」の3つの観点で具体化し、ねらいを明確にして授業展開に取り入れることで、児童の道徳的価値への理解の深まりや広がりを確認することができた。

5 今後の課題

- ・本研究では、内容項目の親切、思いやりの体系的な指導として第2学年、第4学年、第6学年で授業実践を行い、「考え、議論する」道徳の授業の在り方について検証を進めてきた。しかし、道徳的価値は長期的に育まれる力であるため、今回実践を行った学年以外にも授業実践を重ね、体系的な学習指導方法の在り方を明らかにしていく必要がある。
- ・道徳科の授業には、学校の方針や児童の実態などとの関わりが大きい。道徳教育の全体計画や道徳科の年間指導計画と関連させ、より学校や児童の実態に合ったものへと体系的に整理していく必要がある。
- ・本研究では、学習指導方法の1つの在り方を明らかにすることはできたが、評価の検証については十分ではなかった。指導と評価の一体化を図るためにも、今後評価について研究していく必要がある。

<おわりに>

長期研修の機会を与えて下さいました，関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童のみなさんに心から感謝申し上げ，結びの言葉といたします。

Ⅸ 引用文献，参考文献，引用Webページ，参考Webページ

【引用文献】

文部科学省(2015)，『小学校学習指導要領解説 総則編(抄)』，文部科学省，p. 6, pp. 28-29

【参考文献】

石丸憲一(2016)，『ルーブリック評価を取り入れた道徳科授業のアクティブラーニング』，明治図書

明治図書(2016)，「道徳教育11月号」，明治図書

文部科学省(2008)，『小学校学習指導要領解説 総則編(抄)』，文部科学省

文部科学省(2008)，『小学校学習指導要領解説 道徳編』，文部科学省

文部科学省(2008)，『幼稚園教育要領解説』，文部科学省

柳沼良太(2016)，『問題解決的な学習で創る道徳授業 超入門 「読む道徳」から「考え，議論する道徳」へ』，明治図書

【引用Webページ】

井口祥子(2010)，「子供の認知発達に応じた道徳判断の育て方—小学校中高学年を中心に—」，
http://www.jfecr.or.jp/publication/pub-data/kiyou/h22_39/t2-4.html (平成28年12月21日閲覧)

文部科学省(2015)，「教育課程企画特別部会 論点整理(報告)」，p. 47

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1136111.pdf (平成28年12月21日閲覧)

文部科学省(2016)，『「特別の教科 道徳」指導方法・評価等について(報告)』，p. 6

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/08/1/1375482_2.pdf (平成28年12月21日閲覧)

文部科学省(2015)，『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』，p. 2, pp. 15-18, pp. 38-39

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/08/10/1375633_6.pdf (平成28年12月21日閲覧)

文部科学省(2015)，『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』，pp. 35-36

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/08/10/1375633_8.pdf (平成28年12月21日閲覧)

【参考Webページ】

文部科学省(2009)，「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1286156.htm (平成28年12月21日閲覧)

文部科学省(2016)，『「特別の教科 道徳」指導方法・評価等について(報告)』，別紙1

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/08/1/1375482_2.pdf (平成28年12月21日閲覧)